

あとがき

創立百周年に向けた準備は、秋山義昭前学長が、二〇〇六（平成一八）年に、学長を委員長とする「創立百周年記念事業委員会」を設置したことにより始まった。百年史の編纂と出版は、記念事業の柱の一つと位置づけられた。本学では、これまで、『縁丘五十年史』（一九六一年）を刊行している。また、創立九十周年には小樽高商史研究会編『小樽高商の人々』（二〇〇二年）を出版している。さらに、ここでは一つ一つ取り上げることができないが、学内外の研究者によりこれまでに公表された本学の歴史や研究等に関する研究業績がある。百年史編纂・出版は、これら一連の年史及び関連文献の集大成ともいうべき大事業であった。

実際の作業は、創立百周年記念事業委員会の下部組織「百年史編纂委員会」（二〇〇八〔平成二〇〕年からは「百年史編纂小委員会」）のもとで行われた。他方で、本学は、創立九十周年の頃から、専任のスタッフを設け、歴史的史料・文書の収集・保存を進めてきた。百年史編纂委員会の設置を機会に、これを「百年史編纂室」として同委員会の下に置き、史料・文書等の面から百年史編纂・出版を支える組織とした。収集された史料・文書等の一部は、秋山義昭前学長の発意で二〇〇二（平成一四）年に作られた「小樽商科大学史料展示室」に展示されている。

『小樽商科大学百年史』が今ここにある。通史編と学科史・個別論文・統計資料編より成る。通史編は、大きく「第一編 小樽高等商業学校の軌跡」と「第二編 小樽商科大学の軌跡」に分かれ、第一編では、歴代校長のもとで本学の教育研究の基礎が形成されていく過程が、第二編では、単科大学として出発した本学が戦後の緊張した社会情勢のなかで発展していく姿が記述されている。学科史・個別論文・統計資料編では、個別の視点（学科史、各分野の教育・研究、学生の課外活動等）から本学の歴史に光が当てられている。

小樽商科大学は、旧制高等商業学校を単科大学としてそのまま引き継いだ他に例のない国立大学である。それは

ひとえに地域の人々の支援の賜であった。百年史には、その経緯が詳細に描かれている。また、百年史は、本学が渡辺龍聖小樽高等商業学校初代校長の敷いた教育研究の伝統を守り続けてきたこと、そしてそれが、本学の特徴となつて現在に生きていることを伝えている。

それにしても、百年という月日は長く、この間、大学をめぐる環境の変化は本学のような小規模単科大学にも容赦なく襲つてきた。本学は、そのなかにあつて、伝統を見失うことなく、これらの変化や要請に臨機応変に対応しつつ使命を果たしてきた。百年史には、悩み、時には対立しながらも困難を克服してきた教職員、学生の姿も記録されている。

百年史編纂・出版の過程で、忘れることのできない出来事に遭遇した。一つは、創立百周年記念事業の生みの親であり、おそらくは百年史の出版を最も心待ちにしておられた秋山義昭前学長の訃報である。秋山先生は、二〇一一年（平成二三）年一月一〇日にご逝去された。百年史が無事出版できたことを報告するとともに、ご冥福を心よりお祈りする次第である。

もう一つは、二〇一一年（平成二三）年三月一日に発生した東日本大震災である。本学が次の百年に向けて志を新たにしようとしているときに、日本の社会・経済のありかたを根本的に変える災害に見舞われたのは、歴史的な巡り合わせとしかいいようがない。大学は、新しい日本が抱える諸課題を担う人材を育成する責務がある。本学も、百年の歴史のなかで培われた研究や人材育成の方法でこれからの日本社会を支えることを誓う。

難事業といわれている年史出版を、百周年記念の年に成し遂げることができたのは、多くの人々の熱意と尽力の結果であった。百年史編纂小委員会・百年史編纂室のメンバーの教職員の方々、事務を担当した総務課の職員の方々、通史編と学科史・個別論文・統計資料編の執筆にあたられた本学の教職員・名誉教授、学外の方々にも心よりお礼申し上げます。とくに全体の構成と通史編の執筆を担当された荻野富士夫教授・百年史編纂室長の存在なくして出版は

ありえなかった。頭の下がる思いである。そして、図書館・学術情報課の職員の方々の献身的な支えがなければやはり出版は困難であった。印刷出版を引き受けてくださった岩橋印刷株式会社には社を挙げて出版に取り組んで頂いた。これらすべての方々に感謝したい。

小樽商科大学百年史が、設立間もない小樽商科大学出版会から出版できたことも喜びとするところである。また、並行して、学生の手による、学生の目から見た百年史、学園だより学生編集員編『輝光』が二〇一一（平成二三）年三月に出版されたことをここに記しておきたい。

二〇一一年六月吉日

百年史編纂小委員会委員長 和田 健 夫

あとがき

小樽商科大学百年史年表

年(元号)	事(アラビア数字は月・日を示す)
一八九九年 (明治三二)	この年、小樽区は政府に対して高等商業学校の設置を希望。1 実業学校令制定。10 戸水寛人「高等商業学校増設論」(『教育時論』)
一九〇二年 (明治三五)	3 神戸高等商業学校の設置
一九〇三年 (明治三六)	3 専門学校令公布・実業学校令改正
一九〇五年 (明治三八)	2 官立山口高校を山口高等商業学校に改組。3 長崎高等商業学校の設置。夏頃、北海道として専門学校新設の運動をおこす。
一九〇六年 (明治三九)	11・5 小樽区会、第五高商誘致のために土地と創立費の寄付を決定。12 小樽区、創立費寄付を二〇万円に引き上げることを決定。12 文部省・大蔵省による小樽への創立内定。12・7 木村円吉・金子元三郎ら、稲穂町の土地「寄付願」を提出。その後、「寄付願」が相つぐ。
一九〇七年 (明治四〇)	5・14 文部省による校地選定の調査。5 小樽区、造成費一萬七千円の追加負担を受諾。5 末、北海道庁で第五高商設立費分担について懇談。8 小樽区、初年度の創立費三万円を国庫に「献納」。
一九〇八年 (明治四一)	4・6 小樽区、高商設立のための区債募集を決定。5・10 校舎敷地の地均しに着工。
一九〇九年 (明治四二)	7・10 地均し工事の完了。10・7 校舎建築の着工。
一九一〇年 (明治四三)	1 渡辺龍聖、ドイツ留学に出発。4・1 勅令第六六号をもって文部省直轄諸学校官制を改正し、小樽高等商業学校を追加した。また勅令第六七号をもって文部省直轄諸学校職員中に本校職員の名を校長一人、教授二人、助教授一人、書記二人と定めた。
一九一一年 (明治四四)	1・13 文部省告示第四号をもって本校の位置を小樽区稲穂町とし、四月より授業開始の旨を公示した。同告示第五号をもって本校事務所が文部省内に設けられた。1・26 本校校長に東京高等師範学校教授渡辺龍聖が任ぜられた。2・7 文部省省令第四号で本校の修業年限及び学科目程度を規定。2・12 渡辺龍聖、校舎視察のため来樽。2・14 本校規則を制定した。2・16 校舎竣工。2・16 「官報」に生徒募集告示。3・26 「官報」に「無試験検定」による合格者三十六名を発表。3・30 第一回入学試験施行、志願者一五〇中より七十二名に入学を許可した(4・12の「官報」に発表)。3・31 勅令第七三号により本校職員の名目中、教授二人は六人に、助教授二人は三人に、書記二人は三人に改正増加された。4・17 学校事務所を文部省内から本校内に移した。5・5 新入学生徒の宣誓式を挙行、この日を開校記念日とした。

<p>一九二二年 (明治四五・大正一)</p>	<p>と定めた 5・6 授業開始。本校雨天体操場の一部を充用し、第一仮寄宿舍を設けた 5・19 東北帝大総長沢柳政太郎の講演 5 (下旬) 全校茶話会 6・26 高橋直治代議士の「商業講話」7・3 文部省より本校敷地の引き渡しをうけた 7・5 開校披露式。のち剣道、柔道大会 7・18 東京高等師範学校校長嘉納治五郎の講演 8・11 夏休み(9・10まで) 8・24 本校へ皇太子行啓、9 関「工業政策」、佐野善作「取引所論」の臨時講演 9・29 文部省より「教および事務室並びに付属建物の引き渡しをうけた 10・15 職員・生徒三〇名、石狩町へ一泊旅行 12 学科課程の改正 12・20 校友会発会式。ひきつづき弁論大会 12・25 冬休み(1・31まで)</p>
<p>一九一三年 (大正二)</p>	<p>1・18 天狗山麓に兎狩りを行なう 2・18 『小樽新聞』に「高商評判記」連載(3・2まで) 3・21 第二回入学試験施行。志願者一五名中より七二名に入学を許可した 3 『小樽高等商業学校校友会雑誌』創刊 4・18 区内の民家二棟を借り入れて仮寄宿舍にあて、第二寄宿舍及び第三寄宿舍とした 4 今村繁三から学資困難な者の学業資金として月五〇円宛の寄付がはじめられた 5・5 第一回開校記念式挙行。大西猪之介講演「新しき気分」5・20 対農大(現北大)と野球試合行なわれ、二五対〇で敗北。以後、春秋二回の定期戦を行なうことを約束した 6・4 図書館開館 10・3 第一回公開通俗講演会、関「商港論」10・12 第二回公開通俗講演会、佐野善作「取引所に就て」10・22 修学旅行。二泊。苫小牧、夕張、砂川、札幌方面 12・1 区内稲穂町に新たに仮寄宿舍を開設して第四寄宿舍とし、これに第一寄宿舍を移した 12・7 地獄坂の中ほどに玉の井会というクラブ新設</p>
<p>一九一四年 (大正三)</p>	<p>3・18 文部省省令第五号により選科生を設けた 4 小樽区、高商寄宿舍速成会を組織 5・10 『小樽新聞』に「続高商評判記」連載(6・2まで) 6・8 第三回通俗学術講演会、小川郷太郎「対米問題の経済的觀察」7・11 三年生二四名、志摩・寺田両教授の引率により、ウラジオストック、朝鮮、日本一周の修学旅行に出発(8・7、東京で解散) 10・5 花園公園で第一回運動会 11・16 第一回外国語部大会(以後毎年) 11・22 研究部演説大会(以後毎年) 12・1 構内に第一寄宿舍(北斗寮)が完成、雨天体操場の仮寄宿舍を移転する</p>
<p>一九一五年 (大正四)</p>	<p>3・25 第一回卒業証書授与式。卒業生五〇名</p>
<p>一九一六年 (大正五)</p>	<p>1・25 新営の第二寄宿舍(正気寮)完成 1・28 本校規則中授業料の条項を改正。金二五円を三〇円とした 3・20 第二回卒業証書授与式。卒業生五五名</p>
<p>一九一八年 (大正七)</p>	<p>3・20 第三回卒業証書授与式。卒業生五一名 11・4 緑町二丁目に第三寄宿舍の新築完成(のちの第四寮(玉の井寮))</p>
<p>一九一九年 (大正八)</p>	<p>1・10 文部省より新築実験室の引き渡しを受けた 9・20 南亮三郎、「小樽毎夕新聞」に「社会主義者を検挙する前に」を寄稿、筆禍事件となる 11 弁論部主催「全道弁論大会」秋全国的に大学昇格運動がおこる 12・6 大学令・高等学校令の公布</p> <p>1・24 第三寄宿舍(文行寮)完成 2・6 学生大会で、卒業生とともに大学昇格を決議 5・21 消費組合を結成した秋恒例の運動会が中止となる 10・31 同窓会「小樽高等商業学校昇格期成会」を発足 11 高浜虚子の来樽を機に、緑丘吟社の歓迎会。この年、香村秀太郎から向う一〇年間にわたる奨学資金として金一万円が寄付された。これを基として、学資貸与内規を制定した</p>

年(元号)	記 事(アラビア数字は月・日を示す)
一九二〇年 (大正九)	2・9 学生大会で大学資格を校長に「建白」することを決議 2・20 企業実践科実習工場落成。文部省より引き渡された 5・22 弁論部 第一巡回講演会で小樽を出発(二七日、帰樽) 7・11 企業実践科開設につき披露式 10 欧米の教育視察に渡辺龍聖校長長出 10 文部省、小樽高商などに「専攻科」設置を構想
一九二一年 (大正一〇)	4 渡辺龍聖、名古屋高商校長事務取扱に就任 9・27 本校規則を改正。臨時商業師範研究科を設置 10・6 この日より九日まで、開校十周年記念行事を行なった 11・11 渡辺校長告别式 11・28 渡辺龍聖、正式に名古屋高商校長に任ぜられ、後任に伴房次郎を任命 12・12 前校長渡辺龍聖は本校名誉教授となった
一九二二年 (大正一一)	2・8 大西猪之介死去 7・11 皇太子行啓
一九二四年 (大正二三)	3 稲積豊次郎、緑五町目の土地と「生徒奨学費及學術研究費」二万円を寄付 7・14 仙台で聞かれた全国高等専門学校庭球大会東北予選に優勝した(一五日まで) 7・19 仙台で行なわれた第一回全国高等専門学校野球大会東北予選に優勝。京都の全国大会で長崎高商に敗北した(二四日まで) 11 柔・剣道道場新築落成 11 テニス部、全国高専大会で優勝
一九二五年 (大正二四)	4・1 カリキュラム改革の実施。三学期制を二学期制に改めた 4 現役将校の配属制はじまる 5・5 極東オリンピック陸上競技大会(マニラ)の一五〇〇m走で米田隆吉が第二位となる 5・10 大山郁夫の講演「社会科学の人生価値」5 末「軍事教練」の開始 6・6 学生新聞『緑丘』第一号発刊 6・8 山上グラウンド着工 7・2 3 榊田民蔵の講演「マルクスの価値論」7・16 第一回成人講座(9・4まで、以後毎年) 7 社会科学研究会の学連大会(京大)出席問題 10・15 野外演習の実施。「不逞鮮人」の暴動を想定 10・16 小樽市内の労働組合・朝鮮人らが、野外演習の「想定」で高商当局に抗議 10・29 伴校長に社会科学研究会の有志が「決議書」と「抗議書」を渡す 10・30 社会科学研究会で「全国の学生諸君に檄す!」を配布 11・1 山上グラウンド竣工記念式。祝賀大運動会 11・3 伴校長、生徒に「各自慎重の態度」をとるよう訓示 11・10 二三年生の野外演習実施 11・13 学校側は社研の主要メンバー四名に無期停学処分(12・18、処分解除) 12・11 高商倶楽部開設(従来ものを緑町二丁目に移転し、改築したものの) 12 増築教室、外人官舎一棟が新築落成した
一九二六年 (大正一五・昭和元)	1・27 軍教事件後、最初の第七師団による軍事教練査閲 4・1 文部省告示第二〇三号により、本校内に第一四臨時教員養成所を設置した。管理には小樽高等商業学校校長伴房次郎があたった 4・30 第一四臨時教員養成所に、生徒二八名の入学を許可 5 本館の合併教室などを改築し、仮講堂とする 5 文芸研究会による『北方文芸』創刊 7・5 本校創立一五周年記念の一環として研究雑誌「商学討究」を発刊 10・1 札幌対抗学生大演習(軽川) 10・10 全道弓道大会で優勝
一九二七年 (昭和二)	10・3 3 5 ヒューブナー、日米交換教授として来校、「保険論」を講義。なお「戦後に於ける米國經濟界の推移」講演
一九二八年 (昭和三)	2・11 小樽公民会の発足。会長伴房次郎 7・18 20 全国高専野球東北予選大会に優勝、甲子園の本大会に出場 7 臨時教員養成所で臨教卒業生のための「英語講習会」開催 7 弁論部、東北地方に巡回講演 10・28 生徒主事に田上

<p>一九二九年 (昭和四)</p>	<p>市之丞(12・24に卜部若太郎と交代)、生徒主事補に三箇清を任命 12・10大札奉祝式を挙行。体育大会、提灯行列を行なう。外国語劇の復活 6・9第一回競技大会(山上グラウンド) 9・20渡辺前校長の肖像画贈呈式 11・4東京商大福田徳三教授の「経済史」講義(一日まで)</p>
<p>一九三〇年 (昭和五)</p>	<p>3・30ハンス・シュナイダー来校 3・31文部省告示第九一号により、第一四臨時教員養成所が廃止された 5・19東京商大教授高垣寅次郎、「貨幣論」講義(二三日まで) 8・水泳部、東部日本高商水泳競技大会で団体優勝 11・18「北方文芸」発行禁止、文芸研究会解散を命じた 12図書館第二書庫並びに新講堂、教室増築落成</p>
<p>一九三二年 (昭和六)</p>	<p>3・28入試期日の変更による志願者の増加 4カリキュラム改革の実施。ゼミナール制度の実施 6・29京大教授高田保馬の「価格の理論」講義(7・4まで) 7・3共済会設立準備懇談会の発足 10・4開校二〇周年記念式を挙行『商学討究』「特輯号」発刊 10・5慶応大学教授小泉信三の講演「近世社会思想評論」12・13図書館裏にシャンツェを新築 竣工式を行なった 11学生生計調査の実施 12・4共済部の発会式 相談部と事業部(販売部と食堂)の開始 12・7第七師団参謀落合少佐の「満州事変」に関する講演 12「満蒙出征兵士家族慰問金募集」</p>
<p>一九三三年 (昭和七)</p>	<p>1・15校歌が制定された 4本年度より指導教官制を実施した 5・28公開学術講演会(公会堂、札幌丸井記念館、6・11まで) 5・31東京帝大教授牧野英一講演「法律と信義誠実の原則」7音楽部ポカール部、東京のコロンビア・レコードで校歌・行進曲の吹込 12・20卜部若太郎らによびかけて「東亜事情研究会」発足 12本館に教室を増築 12「北回帰線」創刊</p>
<p>一九三三年 (昭和八)</p>	<p>1・14スキー部、全国高専スキー大会(米沢)で団体優勝(一五日まで) 3産業調査会が廃止され、北海道経済研究所が設立された 5二・三年生の野外演習を札幌月寒連隊で実施 6「研究科」設置の新聞報道</p>
<p>一九三四年 (昭和九)</p>	<p>1・13第二回全国高専スキー大会に優勝 2・11万国学生スキー、ヴェンゲン大会に四ツ谷勇出場 2弁論部主催「世界危機批判講演会」3・21函館大火で在学生の罹災、義捐金募集 3「土功組合の研究」(北海道経済研究所「調査報告」第一輯、度会丑巻) 4カリキュラムの部分的改革実施 4伴校長退任の噂が流れる 5・19松岡洋右講演 7・7日本経営学会関東部大会を開催(九日まで) 7実業学校教員夏季講習会開催 夏「満州産業建設学徒研究団」に学生三名と配属将校が参加 11・10「小樽学生東北、北海道凶作地救援会」による募金活動開始 12・20「百年忌記念・マルサス研究」(「商学討究」中・下合本) 刊行 12高商射撃会の設立</p>
<p>一九三五年 (昭和一〇)</p>	<p>2社会科学研究会の存在が発覚、三名検挙、学校側は「厳重注意」 2「経営学論集 産業統制研究」(日本経営学会関東部会小樽大会) 刊行 4・2校長伴房次郎に代わり、第三代校長として苦米地英俊教授が任命された 4学内機構を改組し、教導部を設けた 5学術研究基金の募集開始 5・22渡辺龍聖講演「商業教育二十五年の回顧」5「新興北千島漁業の経済調査」(北海道経済研究所「調査報告」第二輯) 5校医による健康診断の実施 6・26一年生全員、三日間の予定で月寒に軍隊宿泊を行なう。以後、軍隊宿泊は年中行事の一つとなる 7生徒至誠会の「満州国」派遣団に生徒二名を派遣 8・15「公民教育講座」の開催(稲穂女子尋常高等小学校、9・2まで) 9苦米地英俊校長、「満州国」朝鮮などに出張(二月まで) 秋「研究科」設置の新聞報道 11・3プール開き。根上博ほか三名の選手が招かれた</p>

年(元号)	記 事(アラビア数字は月・日を示す)
一九三六年 (昭和一一)	2 ガルミッシュ・バルテンキルヘンの冬季オリンピックに宮島巖出場 3・25 入試日程を例年より繰上げ 4・27 胸部疾患の者多く、レントゲン写真撮影とツベルクリン反応の検査実施 7・4 校旗を制定、入魂式 7・5 本校創立二五周年記念式典 「緑丘」第九四号の「部説」に「北に一星あり小なれど其輝光強し」の語句が登場する 10・1 第二外国語にスペイン語が加わる 10・9 天皇行幸 12・20 「創立二五周年記念論文集」を発行
一九三七年 (昭和一二)	2 講演部主催「故大西教授追憶 経済時局講演会」 2・27 小樽市市会において「小樽高等商業学校を商科大学に昇格する案」を建議 7 同窓会を社団法人緑丘会へ改組した 9 「緑丘」第一〇二号の「編輯後記」が問題化。編集部の変更 10・9 第一回行幸記念講演会 10・15 国民精神研究所員、山本勝市講演「非常時局と消費節約の問題」 12・10 教官図書閲覧室の増築落成。従来の教官図書閲覧室は図書館事務室となった 12・14 南京陥落の校内「祝賀会」実施、翌一五日、住吉神社に「戦勝報告」 本年を最後として外国語劇は中止された
一九三八年 (昭和二三)	4・1 「組主任制度」を新設した 7 花園公園地均し・山上グラウンドの射撃場構築などの勤労作業 7・16 生徒四七名、小林象三・玉井武引率のもと朝鮮・満州国」方面に修学旅行 9・5 花園公園地均し勤労作業 10・9 第二回行幸記念講演会。行幸記念碑除幕式を挙行。「行幸記念誌」刊行 10・26 大本営海軍報道部水野中佐講演、「日支事変の特異性」 10・23 三年生が第七師団の秋季演習に参加 11 小樽高等商業学校実践研究室編「商業実践必携」の刊行 秋奉安殿設置(栗林徳一の寄贈)
一九三九年 (昭和一四)	3 志願者殺到、入試の激化 4・1 中国語を第一外国語とする「語学乙類」学級の新設 4 中野清一 辞職し、満州建國大学に赴任 5・22 現役将校配属令一五周年に当たり親観、本校から浜林、嵯峨、吉野三教官の引率により生徒代表一〇名が参加した 6・7 断髪令 6・20 東洋経済新報筆石橋湛山講演、「時局と統制経済の行方」 6・23 緑丘会の創立総会開催 7・5 生徒五名、興亜青年勤労報國隊として「満州国」に向かった 7・8 京都帝大教授高田保馬講演、「東亜の問題」 7・8 日本社会学会が開催された(一〇日まで) 8・28 心身鍛錬のため丸山登山(三一日まで) 9・1 山上グラウンドで射撃場構築作業 10 「体力章検定」の実施 12・1 戦没同窓生の合同慰霊祭を行なった 本年を最後として修学旅行は中止された
一九四〇年 (昭和一五)	1・21 本校生徒菅野駿一、全日本学生スキー、純ジャンプに優勝 2・11 菅野、純ジャンプの日本選手権を獲得 2 再度の「断髪令」 4・1 「東亜経済史」「東亜経済地理」などの科目新設 7・11 勤労奉仕はじまる 7・12 学生五名、三箇教授引率の勤労報國隊北支派遣隊として参加のため出発 7・14、20 東北六県巡回学術講演会 7・27 発売頒布禁止処分図書について、文部省・小樽警察署に報告 9 校庭下の民家を借りうけ、第一寄宿舎の分室とした 10・10 創立三〇周年記念式典 11・10 紀元二六〇〇年奉祝式 11・26 校友会を解散し、小樽高商報國団を結成した 11 ポト部全国制覇 12・10 紀元二六〇〇年記念論集「国家と経済」を発行

<p>一九四一年 (昭和二六)</p>	<p>1 全校スキー教練の実施 2 菅野駿一、大倉山ジャンプ台の試躍会で優勝 4 24勤労作業、シャントエ下の開塾 5・7最初の「鍛練日」 5・30東北帝大教授阿部次郎講演、「日本の思考に就て」 9・5文部省、「卒業期繰上二閱 スル件」を指示 9・7三年生、一週間の「兵営宿泊」(旭川) 9・19「学園の臨戦態勢確立」のため、報国隊を結 成 10・8同窓生栗林徳一、研究室・学生会館を寄贈。その落成、開館式。北海道経済研究所を経済研究所に拡充 10・10創立三〇周年記念式典 10・16徴兵延期期間を短縮し、卒業年度を繰上げる勅令を公布。特別防護団設置 11・ 1文部省省令第八一号第一条により、一九四二年度に於て本校本科を卒業すべき者の修業年限を六ヵ月短縮し二年六 ヵ月とした 11国防部、体育振興会北海道地方支部結成記念練武大会で優勝 12・2小樽高等商業学校臨時補習科規 則を制定 12・5高学年の臨時徴兵検査(小樽市議事堂) 12・8マッキンノン、小樽警察署に連行。生徒・教職員は 住吉神社で戦勝祈願 12・10繰上げ卒業の卒業試験実施 12・26繰上げ卒業式 12・30創立三〇周年記念論集「戦争 と経済」刊行</p>
<p>一九四二年 (昭和二七)</p>	<p>2・15花園公園における小樽市戦勝祝賀会に市内在住生徒の参加 3・19新年度始業式。三一日に入学式 3「標準 教授要綱」にもとづくカリキュラム改正 7・3東京商大教授中山伊知郎講演、「統制経済の理論的考察」 7糸魚川 祐三郎、文部省督学官に転出 8・4第二学期開始 8・24防空訓練の実施 9・16卒業式 9手塚寿郎、上海の東 亜同文書院大学へ転出 12スキー部、全国学徒スキー大会高専部で団体優勝</p>
<p>一九四三年 (昭和二八)</p>	<p>2・16全校スキー教練の実施 4・22警戒警報発令中の登校では、ゲートル着用を義務化 5・3小樽に帰省後、病 床にあった手塚寿郎の死去 6・3建国大学教授 中野清一講演 6常時、ゲートル着用の義務化 7・1八雲・千 歳・女満別へ勤労働員(一五日まで) 7・16約六〇名を対象に「健民修練」の合宿実施(学生会館、一週間) 8・ 25第七師団による教練査閲 8・27日本統計学会第一三回総会開催(三〇日まで) 8海軍予備学生・陸軍特別操縦見 習士官募集に多数志願、入隊 8空知郡赤平村に「援農」 10・2勅令「在学徴集延期臨時特例」公布(学徒の徴兵猶 予停止) 10・22仮卒業証書授与式 10最後の北大予科戦 11・23学校主催の「合同慰霊祭」 12徴兵延期撤廃により 学徒出陣</p>
<p>一九四四年 (昭和一九)</p>	<p>2「手塚文庫」の設置 2講演班、大東亜経済講演会を開催(北海道商工経済会議事堂) 3「総力戦経済の研究」(手 塚寿郎教授追悼記念論集) 4・1勅令第一六五号文部省直轄諸学校官制改正により、小樽高等商業学校を小樽経済 専門学校に改める 4・5経済専門学校としての最初の始業式 4第五寄宿舎(清明寮)新設、一年生二五名が入寮 4北海道経済研究所を北方経済研究所に転換 5ロシア語講師スミルニッキー、「造言飛語並無線電信法違反」容疑で 小樽署に検挙される 6全道各地に「援農」(九月まで) 9・1小樽経済専門学校の規則の制定 9十勝郡大樹村で重 機関銃陣地作りに従事 9・25機関誌「商学討究」を「北方経済研究」と改題し、その第一号を発行 9・25「緑丘」 第一八七号に座談会「経済科学の新動向」掲載 12・12帝国在郷軍人会小樽経済分会結成 12・30一年生が群馬県の 中島飛行機小泉製作所に出発(四五年五月、帰校)</p>

年(元号)	記 事(アラビア数字は月・日を示す)
一九四五年 (昭和二〇)	<p>2・12道場七郎・牧野顕吉の慰霊祭 6・30学生徒隊の結成 7・7重要書類の整理と搬出の指示 7・10勝郡陸別村での「援農」(九月末、帰校) 8・16教職員・生徒に苦米地校長の「憂国」の演説 8・21授業再開、軍事教練も継続 9・1経済研究所で所内の「戦後経済(復興)の研究会」開催 9・25第三回卒業証書授与式(最後の繰上げ卒業)卒業生一九九名 10占領軍による教室・寄宿舎・学生会館などの接収(十一月、解除) 10・30「教育勅語」奉読式 11・14学生大会で学園の民主化を求める 11・16軍関係学校卒業生・在学生の転入学宣誓式 12・1専修科出願の開始 12・6食糧・燃料難のため明年三月一七日まで長期冬季休暇 12・9苦米地校長、教授会で政界出馬を表明 12・22専修科入学試験(翌四六年三月一八日、入学式)</p>
一九四六年 (昭和二一)	<p>2・10全校スキー校内大会 3・13校長苦米地英俊が辞任し、浜林生之助が校長事務取扱となる 3「職員消費組合」の設立 3・18第三学期授業開始 3・25「緑丘」の復刊(第一九八号)、「発売延期」・編集部解散の措置 4・1「小樽経済専門学校規則」の改正 4・9学友会の設立総会 4南亮三郎、「思想問題研究」を創刊 5・15第三六回入学式。新入生二二五名 5・10「小樽経済専門学校聴講生規則」制定 5・31大野純一が校長に任命された 6・10新執行部発令(教務部長室谷賢治郎、学生部長松尾正路、図書館長高橋次郎、事務部長木部林二、社会経済研究所委員長南亮三郎) 6・13学友会主催の弁論大会と演劇公演、一四日には運動会の復活 6・20機関誌『北方経済研究』を「社会経済研究」と改題し、その第一号を発行 6・29研究所の再建着手、八月一〇日、名称を「経済研究所」とする 6このころ食糧難のピーク、授業は午前中のみ 7・8「学園再建教授学生懇談会」(「緑丘」第一〇〇号掲載) 7・8GHQ経済科学部員クレマー中尉、「研究所」視察 7教職員適格審査委員会の判定を開始 夏頃 共済組合の発足 9・20緑丘会総会で大学昇格を決議 9・21大野校長、全学生に昇格問題を発表 9・21「外国及外地引揚邦人子弟」の転入学試験 9学生書房の発足 新刊と古本の委託販売 10・5本校創立三五周年記念式挙行 10・5小樽市会で大学昇格の建議案を満場一致で可決 10・10「小樽経済専門学校昇格小樽商科大学設置期成会」の発足 10・17復活第一回北大予科定期戦 10・18小樽経専昇格・小樽商科大学設置市民大会 11・3ポルト部全国制覇(滋賀県瀬田川) 秋創立三五周年記念の経済論文募集。「緑丘」第二〇一号に入選作掲載 11・8文化祭(創立三五周年記念行事) 11・28文部省に「男女共学についての許可申請」(新年度から) 11教職員向けに「越冬資金」貸出の斡旋 12・17苦米地英俊・岡田春夫・椎熊三郎代議士は連名で衆議院に昇格建議案を提出(四七年三月三日、衆議院本会議で採択) 12・21石炭不足のため、四〇日間の冬季休暇</p>
一九四七年 (昭和二二)	<p>2スキー部、全日大スキー選手権大会で団体四位 3・22北海道地区学校集団適格審査会が高橋次郎を「教職不適格」と判定(四八年四月二七日、免官) 4・19「教職不適格」として南亮三郎に休職発令(四八年七月三十一日に免官) 5・5第三七回入学式。新入生二〇六名(最初の女子学生三名をふくむ) 5・21第一回の市民向け課外講座はじまる 6・24東京商科大学教授山田雄三の「経済学」集中講義 7・13「小樽商科大学昇格準備委員会」では二五〇万円の基金募集着手を決定 7・25「緑丘」第二〇二号で「商大昇格確定的!」と報じる 7・19講演部の巡回講演(歌志内・大夕張炭鉱など) 8・1文部省・本校・小樽市共催の文化講座開催(市立富岡中学校講堂) 9・27前校長苦米</p>

<p>一九四八年 (昭和二三)</p>	<p>地英後に本校名誉教授の名称が与えられた 7・9 東京商大教授久武雅夫「統計学」、東京商大教授山田雄三「経済学」、北大教授矢島武「農業経済学」の集中講義 12・30 創立三五周年記念論文集『経済再建の諸問題』第一集を發行</p> <p>4・20 文部省に「小樽商科大學設置申請書」の提出 5 「北海道立小樽中学校英語科教員養成所」の設置(北海道庁からの委託) 5・12 学生大会で授業料値上げ反対運動に参加することを決定 5・22 昇格問題について文部省の了解(推測) 6・22 外国語弁論大会 7・2 学生大会、全国官公立大學高専自治連盟に加盟を決定 7・19、24 道内巡回講演 8・10 G H Q 民間情報教育局の W・C・イールズ、本校を視察 8・26 G H Q による本校の単独昇格内定 10・4 大學設置委員会第六審査会による審査</p>
<p>一九四九年 (昭和二四)</p>	<p>3 圖書館に「鬼頭文庫」設置 4・25 学生会館、火災のため焼失 5・6 学生大会、文部省の大學法案に反対を決定 5・31 法律第一五〇号をもって国立學校設置法が公布されて小樽商科大學を設置、小樽經濟專門學校はこれに包轄された。大野純一が学長に任命された(五年七月二十八日まで)。山村良三が事務局長事務取扱となる 6・1 開学事務を開始 6・15 新制商大の入試実施 6・22 文部省令第二三号をもって国立學校設置法規則が制定され、本学職員の設定員は次のとおり定められた。学長一、教授二〇、助教授八、講師四、助手一、職員六四、計九八名 7・2 開学記念行事として日本経営学会臨時大会を開催 7・7 第一回入学式。新入生一五九名。高瀬莊太郎文相も列席し、開学式挙行 7・11 授業開始 7・15 栗田源助が事務局長となる 7・30 道内巡回講演に出発 8・18 文化講座はじまる(9・13まで) 8・26、30 一橋大教授杉本栄一の特別講義 10・9 第一回対北大定期戦 10・12 羽仁五郎講演、「クローチエの歴史学」 10・22 大野学長、教官会議で拡充資金募集を提案 11 「小樽商科大學拡充期成会」の発足 秋頃小樽市から非公式に夜間短期大學設置の要望 12・25 「小樽商科大學開学記念論文集」第一分冊を發行</p>
<p>一九五〇年 (昭和二五)</p>	<p>3・25 「小樽商科大學開学記念論文集」第二分冊を發行 春、屋内体育館北側に「学生食堂」の設置 5・1 第二回入学式。新入生一九〇名 5・29 学習院大學教授清水幾太郎講演、「平和を求めて」 6 学生大会、卒業所要単位の縮小を決議 6・16 学生大会、「小樽商科大學平和を守る会」結成を決議 7・3 紅陵大學長高垣寅次郎講演、「ケムブリッジ学派に於ける貨幣論的特質」 7・3、8 一橋大教授上原専祿の「歴史学」特別講義 9・20、26 一橋大教授板垣与一、「政治学」特別講義 9 末、二学部拡充プラン(北海道綜合開発審議会に提出) 11・2 第二回大學祭(一九日まで) 11・5 「商学討究」復刊第一号發行 11 復活第一回經濟視察旅行 12・13 教官会議で大野学長から夜間大學部設置の説明、推進を決定 12・25 「人文研究」第一輯發行</p>
<p>一九五一年 (昭和二六)</p>	<p>1・15 「小樽商大短期大學部設置期成会」の発足、北海道議會に陳情書提出 1・18 短期大學部設置に關して、大野学長より経過報告 3・31 法律第八四号国立學校設置法の一部改正により、旧制小樽經濟專門學校が廃止された(3・3、閉校式) 4・20 第三回入学式。新入生一九七名 6 校友会の会則改正。学生側の権限拡大 7・1 北海道經濟學會の創立總會開催 この年の集中講義、東大教授高柳信一、「憲法」一橋大教授大平善梧、「國際法」一橋大教授佐藤弘、「地理学」 大阪市大教授実方正雄、「産業法および労働法」一橋大教授上原専祿、「歴史学」 9・1 「短期大學部設置許可申請書」を文部省に提出 秋、短期大學部校舎の建築開始 11・15 大學設置審議会の審議員が短大設置のための実地調査</p>

年(元号)	記 事(アラビア数字は月・日を示す)
一九五二年 (昭和二七)	3・31法律第二号国立学校設置法の一部改正により、短期大学部が併設された。4・11短期大学部の入学試験(五日まで)。5・1短期大学部第一回入学式。入学者一七名。5・17新入生歓迎園遊会。6学生委員会をめぐる学生間の対立激化。6・27学生・教員が参加した「破防法案条文研究会」開催。6・30、7・2一橋大教授板垣与一、「政治学」特別講義。7・4、9一橋大教授板垣与一、「社会科学概論」特別講義。7・15短大教授相沢正美が短大主事となる。8・1、短大事務長に花田稔就任。7月末、校門前に新設グラウンド完成。9・15、21一橋大教授山中篤太郎、「社会政策」特別講義。9・29、10・3一橋大教授木村重義、「財政学」特別講義。10・6、12一橋大教授増田四郎、「歴史学」特別講義。10・7「小樽商科大学専攻科設置案」を文部省に提出(認可下りず)。10・12短大開学式、新校舎落成式挙行。11学生大会、出席票の廃止を決議し、経済学関係教官の充実などを要望。
一九五三年 (昭和二八)	3・16新制商大最初の卒業式。卒業生一四九名。4・1商業教員養成課程設置。定員一〇名。6教授会規則の改正、助教授・講師も教授会に加わる慣行を明文化。「学長選考規則」の制定。教授による協賛会が最終決定権をもつと規定。助教授層らの反発強まる。7・6、7日本商業学会を本学において開催。7・28学長選挙。現学長大野純一が当選し、引き続き学長に就任。10・28学生の選挙権に関する自治学通達に反対し、本学学生のデモ敢行。集中講義。一橋大教授佐藤弘、「人文地理学」。一橋大教授大平善梧、「国際法」。東大教授木村重義、「会計学」。大阪市大教授実方正雄、「産業法および労働法」。
一九五四年 (昭和一九)	4・1専攻科の設置(経理経営学専攻、定員一〇名、修業年限一年)。商業教員養成課程の拡充(定員二五名)。6・7三井船舶相談役佐々木周一、「海運論」特別講義(九日まで)。6・28学生大会、授業改善を決議。7・8東大教授木村重義、「監査論」特別講義(九日まで)。7・10一橋大教授山田雄三、「社会政策」特別講義(一七日まで)。7・12芝浦製作所専務西野嘉一郎、「会计学」特別講義(二七日まで)。7・28現職教育公開講座(8・10まで)。8・19天皇行幸に際し、本学短期大学部を視察。9・1横浜市大教授樋口午郎、「国際金融論」特別講義(一一日まで)。9・1一橋大教授板垣与一、「政治学」特別講義(二〇日まで)。9・1一橋大教授上原専禄、「歴史学」特別講義(七日まで)。
一九五五年 (昭和三〇)	5・6警察官聴講生問題おこる(5・15、学生大会)。6・18教職員組合結成。集中講義。一橋大教授佐藤弘、「人文地理学」。大阪市大教授実方正雄、「経済法」。東大教授木村重義、「会计学」。12五名のゼミ生が第一回日本学生経済経営学会(神戸大学)に参加。
一九五六年 (昭和三一)	2・18学生ら、「小樽商科大学ゼミナール協議会」を結成。4・1教官停年規程制定。4「沖縄留学生」の最初の入学式(石川三郎)。5・21学習院大学教授清水幾太郎講演、「これからの日本」。6・6第二寮(正気寮、火災のため焼失)。6・29学友会を解散し、学生自治会(自治委員会)を結成した。7・7四五周年記念式。7・11第二回日本統計学会を開催。10・1学内機構改革(教務・学生部を一本化し、補導・教務両委員会発足)。11学生大会で「学長選挙の民主化」を決議。12・1「創基第四十五周年記念論文集」を発行。集中講義。北大教授矢田俊隆、「歴史学」。一橋大教授板垣与一、「社会科学概論」、「政治学」。一橋大教授小島清、「国際金融論」。北大教授鎌田正三、「工業経営論」。東大教授木村重義、「監査論」。一橋大教授山中篤太郎、「社会政策」。

<p>一九五七年 (昭和三十)</p>	<p>1 大野学長、蜘蛛膜下出血で入院。学長代行木部林二 2・20 北大教授会で「学長選考規則改正委員会」の発足(5) 8 「改正選挙規則」決定、講師以上の選挙権を認める) 4 一律的な「出席調査」を廃止(各教員に一任)。ゼミの必修制緩和 6・29 「緑丘」第二八九号に、古瀬大六・麻田四郎「緑丘学園再建の構想」を発表。学内に大きな反響 7・6 学長選挙行なわれるが、学長予定者決定せず 7・19 附属図書館書庫新築落成式 7・29 大野学長任期満了。木部林二が学長事務取扱となる 10・10 学長再選挙を行ない、東工大教授加茂儀一が当選。招聘のため、木部・木曾・石河らを東京に派遣。一六日、加茂と正式に懇談 10・14 加茂に学長就任を承諾するよう交渉するため、学生代表を派遣することを学生大会で決定 11・8 加茂儀一が学長に就任(六五年一月七日まで) 11・25 加茂学長着任、学生たちは小樽駅頭のストームで出迎え 集中講義 北大助教授早川泰正、「経済変動論」 立正大助教授長谷部亮一、「経済政策」 北大助教授石垣博美、「経済学史」 東大教授木村重義、「監査論」 一橋大教授石井順三、「商學」 北大教授金沢良堆、「経済法」</p>
<p>一九五八年 (昭和三十)</p>	<p>3・18 「緑丘」第二九四号に教務委員長長木村増三「本学科目編成についての私見」発表 3 北大教授会で「小樽商科大学後援会」設立について審議(未了) 5・23 「小樽商科大学学内拡充委員会」の発足 6・21 北海道経済学会開催 6・28 第一回公開学術講演会 7・8 一橋大名誉教授大塚金之助、「経済学史」特別講義(佐々木周一寄贈、一二日まで) 7・10 大塚金之助特別講演、「ヨーロッパの旅」 7・9 中央大助教授津久井佐喜男、「産業心理学」特別講義(草野義一寄贈、一九日まで) 8 古瀬大六「北海道産業連関表作成経過報告書・総説」 8・31 加茂学長、アメリカ教育制度視察のため出発。12・7、帰国 10・28 警職法反対のため、学生ストライキ、市内で街頭署名</p>
<p>一九五九年 (昭和三四)</p>	<p>2 ゼミナール協議会、学生研究論文集「緑丘アカデミア」を創刊 4・1 必修科目増加、ドイツ語・英語クラスの増設、法学講座の充実 5・6 教授会暫定規則改正 6・12 一橋大教授中山伊知郎、「日本経済論」特別講義(草野義一寄贈、一二日まで) 7 一橋大教授高島善哉、「社会科学概論」特別講義(君島与一寄贈 大阪市大教授実方正雄、「経済法」特別講義(上村甚四郎寄贈) 芝浦製作所専務西野嘉一郎、「監査論」特別講義(栗林徳一寄贈) 作家伊藤整「文学論」特別講義(矢島喜市寄贈) 7・24 日本商用品学会の開催 夏 古瀬大六による電子計算機の試作完成 夏 英語科教員、国際基督教大学の視聴覚施設を視察 1 一億円基金募集の具体化 10・8 日本保険学会の開催</p>
<p>一九六〇年 (昭和三五)</p>	<p>3・28 総合寮新築工事完成 4 「証券講座」開設(日興証券寄贈基金) 4・25 「緑丘」第三二二号で、財団法人小樽商科大学後援会の設置と一億円基金募集を発表 5・19 日米安全保障条約改定反対のストライキ決行(6・22までに九日間)、街頭デモ 7・4 一橋大教授板垣与一、「社会科学概論」特別講義(進藤孝二寄贈、一二日まで) 7・11 一橋大教授山田雄三、「経済学史」特別講義(田上東稲寄贈、一五日まで) 7・11 東大教授大塚久雄、「歴史学」特別講義(松本義一寄贈、一六日まで) 7・20 智察寮に学生収容、八五名 9 音楽評論家山根銀二、「音楽論」特別講義(草野義一寄贈) 9・3 第一寮廃寮式 10 正式に創立五〇周年募金活動の開始</p>
<p>一九六一年 (昭和三六)</p>	<p>8 「小樽商科大学創立五十周年記念論文集」の刊行 9 電子計算機の導入 秋 学生らは「マル経講座設置促進委員会」を結成し、大学側に働きかける 12 ランゲージ・センターの開設</p>

年(元号)	記 事(アラビア数字は月・日を示す)
一九六二年 (昭和三七)	3 智明寮第二期建設工事竣工 3 寮誌「不凍港」の発刊 4・1 新たな学科目に「数理統計学」「商業数学」「計算機論」、「外国語実験室演習」、「経済学特殊問題」(マルクス主義経済学) 開設 7 第六回「東北、北海道経済ゼミ」を開催(六大学の参加) 10・25「緑丘」第三三三号に「着々進む管理学科センター」掲載
一九六四年 (昭和三九)	3 学生会館竣工(六月、開館) 4・1 新たな学科目に「応用数学」「管理科学」「数値計算」が加わる 4・1 商学部の入学定員一八五名に増員(六五年に二六五名、六六年に一九〇名) 9 短期大学の学友会総会で五年制夜間大学への昇格を決議 11 計算センター開設 12 外国語実験実習室開設 12 夜間大学昇格のための街頭署名運動などを開始
一九六五年 (昭和四〇)	3 体育館竣工 3・24 短期大学の「二部昇格準備委員会」の結成 4・1 管理科学科設置(学生定員四〇名)。経済学科・商学科の学生定員も各二〇名増員 6 学生有志による生協準備会の再発足 10・9 旭展望台に多喜二文学碑の建立 10・27 大泉行雄(前香川大学長)が学長候補者に決定(就任を固辞、12・8 の教授会で断念) 11・13 日韓条約反対のストライキ 11・28 加茂、小樽を去る。松尾正路が学長事務取扱に 秋 将来計画委員会による「二学部六学科構想」(「四〇年構想」、六六年七月に概算要求)
一九六六年 (昭和四一)	2・10 実方正雄(大阪市立大学教授)を学長候補者に決定 3・1 実方正雄、第三代学長に就任(四日着任、学生はストームで歓迎、七六年二月二九日まで) 4・1 短期大学の入学定員二〇名に増員(六八年に一六〇名) 4・1「進級停止制」(「進級バー」の設定)の実施 5 教官研究棟建設工事竣工 6・23 生協設立発起人の発足、出資金の募集(七月、設立総会) 9・1 生活協同組合の創設(喫茶部 購買部 書籍部は一〇月末) 10・21 ベトナム反戦全学ストライキ、バリケード設置・市内デモ
一九六七年 (昭和四二)	4・1「基礎教育科目」として概論科目が必修化、「一般教育科目」の単位数縮小 9 附属図書館、講義棟(海側)建設工事竣工 10・21 ベトナム反戦全学ストライキ
一九六八年 (昭和四三)	3 管理棟竣工 12・9 生協総会をめぐり学生間の対立
一九六九年 (昭和四四)	2 自治会選挙で新執行部成立(学生戦線と反帝学評の連立) 4・1 短期大学部商業科を商業学科と改称。商学専攻科に管理科学専攻課程増設 4・17 入学式中止。自治会が自主入学式を主張 4・18 全学集会 5・22 全学共闘会議、全学無期限ストライキを提起(学生大会で否決) 5・22 管理棟封鎖、学生会館事務室の占拠 5・25 実方学長「全学闘争会議の学生諸君に告ぐ」・「緑丘学園全学生の皆さんに訴える」(二九日、「再び全学生諸君に訴える」) 5・27 学生大会(二八日、三〇日)も開催、事務棟封鎖反対と大学臨時措置法案反対の全学ストライキを決議。全学関心の封鎖続行 5・30 事務系職員ビラ「叫び」 6・5 教官有志一同「全学闘の諸君に訴える」 6・16「三年生無関心撲滅の会」(三無会)結成 6・23 旧本館・新館教室棟の封鎖 6・27「大学立法」粉碎、自治会再建実行委員会準備委員会 結成、封鎖解除を主張 7 初め 英語の授業を正法寺でおこなう 7・5 1 教官による事務棟封鎖解除 7・5「ゼミ有志連合」の発足 7・11 全学闘と学長・学生部長の団交(一四日にも) 8・13 教授会名による大学臨時措置法に反対する声明 8・15 緑丘戦没者記念塔建立、完成記念式典 8・21 教授会、封鎖

<p>一九七〇年 (昭和四五)</p>	<p>解除問題で長時間の討議(二二日まで) 9・1全学闘争会議、解散。学生戦線・反帝学評ら四者による封鎖続行 9・8教授会構成員と封鎖学生との大衆団交(一九日まで) 9・ハリケード内で「自主講義」活発化 10・1四ゼミ合同討論会の発足(11・9・9)「ゼミナール共闘会議」となる 10・20四者連合、二三項目要求 10・24教室自主管理委員会の結成(10・27、二三項目要求を決定、教授会に団体交渉を要求) 10・25教室棟のバリケード撤去(旧館教室などのバリケード撤去は12・3) 10・28教授会と教室自主管理委員会との予備折衝(11・3まで) 11・18英語クラス・ゼミなどの大衆団交に向けての討論会(二二日まで) 11・18事務棟に学生課・庶務課が戻り、業務再開 11・23合同教授会、二三項目に対する回答を協議(二四日も) 11・25大衆団交(二八日まで) 12・8再度の大衆団交 12・9学生大会実現実行委員会による学生大会開催、教室自主管理委員会の妨害で流会 12・10教授会、大衆団交を受けてカリキュラム改革のための大学制度検討委員会を設置(二二日から一六日まで集中討議) 12・10補講開始(七〇年一月二〇日まで)</p>
<p>一九七一年 (昭和四六)</p>	<p>2・14教室自主管理委員会の解散 2・実方正雄、学長に再任 3・18入試に向けて小樽警察署に警備要請 3・19教室「占拠」学生に退去通告(二〇日・二二日と学長団交) 3・22機動隊、校門外で待機。「占拠」学生、教室を出て学内デモ 6・23「六月行動委員会」によるスト、教室封鎖 9・9大学院準備委員会の設置 11・30大学院商学研究科設置申請書を文部省に提出</p>
<p>一九七二年 (昭和四七)</p>	<p>2・22「学園だより」創刊 4・1大学院商学研究科(経営経理専攻)設置、商学専攻科廃止</p>
<p>一九七三年 (昭和四八)</p>	<p>1旧本館保存の声 3旧本館の取り壊し、講義棟の増築、研究棟の増築(七三年三月竣工) 4・1カリキュラム改正。卒業所要単位の減少、必修科目の原則廃止、「一般教育科目」の履修条件緩和、学科を越えたゼミ所属可能に 11山岳部、チリ・パタゴニア遠征</p>
<p>一九七四年 (昭和四九)</p>	<p>4・1北大経済学部と単位互換実施 4・1短期大学のカリキュラム改正。専門教育科目の選択必修指定を廃止、「文献講読」の開設</p>
<p>一九七五年 (昭和五〇)</p>	<p>2実方正雄、学長に三選</p>
<p>一九七六年 (昭和五一)</p>	<p>3この年から東京試験場廃止 4生協、食堂の営業開始 9智明寮闘争委員会、「寄宿寮不払宣言」</p>
<p>一九七七年 (昭和五二)</p>	<p>3・1伊藤森右衛門、第四代学長に就任(八〇年二月二九日まで) 7・1新長期構想委員会の発足 7・23サークル会館・生協の水光熱費負担などをめぐり学生部長と合同交渉</p>
<p>一九七七年 (昭和五二)</p>	<p>3新電子計算機(MELCOM-COSMO-700)導入 職員集会所「緑丘荘」開設 6新長期構想委員会のなかに「短大改革小委員会」が発足(一一月、「夜間主コース」案を提示) 8第二グラウンド(山上)改良工事完了 10商業学科内に「商学コース」と「経営法学科コース」設置を学内措置として決定(実際の学生所属は七九年度から)</p>

年(元号)	記 事(アラビア数字は月・日を示す)
一九七八年 (昭和五三)	3 「共通一次試験」導入。入学定員の一部を第二回募集とし、志願者殺到 4・1学科改組し、商業学科に「商学コース」と「経営法学コース」設置。入学定員が三八五名となる 4・1施設課設置 10教授会に新長期構想委員会「三学部五学科構成案」(「0次案」)提出、了解
一九七九年 (昭和五四)	6 新長期構想委員会内の「短大専門委員会」が「短期大学部改組の骨子」を提出
一九八〇年 (昭和五五)	3 新長期構想委員会の活動凍結(八一年九月、解除) 3・1長谷部亮一、第五代学長に就任(八四年二月二十九日まで) 3 短期大学部の入学者、定員割れとなる 3 智明寮女子学生入居 建物明渡しの仮処分申請 4 智明寮への新規入寮停止 4・23「緑丘会館」完成(東京・池袋、「サンシャイン六〇」五七階) 10・6 緑丘会理事会で新キャンパス獲得・移転のための「促進委員会」設置決議
一九八一年 (昭和五六)	7 開学七〇周年記念資料展示会開催 10 開学七〇周年記念植樹 12 旧校舎(一〇〇番棟)解体、創設以来の建物はすべてなくなる 管理棟新会議室(一階・倉庫、二階・第三会議室)新設、学生ホール完成
一九八二年 (昭和五七)	6 智明寮女子学生入居問題訴訟和解成立
一九八三年 (昭和五八)	3 屋内プール新営 9 後援会助成による教官の海外研修制度で今喜典の派遣
一九八四年 (昭和五九)	2 教授会、「三学部五学科」構想案を破棄 3 サークル共用施設新営 3・1 松本忠司、学長事務取扱となる(3・31まで) 4・1 藤井栄一、第六代学長に就任(九二年三月三十一日まで) 7 概算要求に「地域経済研究資料センター」構想を盛り込む
一九八五年 (昭和六〇)	3 計算センター竣工 3 「短期大学部の将来構想に関する部会」設置(六月、検討結果を提示) 6・26 新長期構想委員会、新「三学部五学科」構成案を提示、短大廃止を盛り込む 7 国際交流委員会の発足 6・26 新長期構想委員会、新「三学部五学科」構成案を提示、短大廃止を盛り込む 7 国際交流委員会の発足
一九八六年 (昭和六一)	1 藤井学長の移転問題に関する見解表明により、移転問題の収束 6 創立七五周年記念 南亮三郎文庫公開および本学沿革資料展三示会
一九八七年 (昭和六二)	3 この年度の入試より「英語・小論文選択類」を「英語・国語選択類」に変更。A日程を採用し、志願者増加 4 一六〇番講義室新設 5 新長期構想委員会、「経営法学科」設置、「社会情報科学科」への名称変更などの新構想 7・22 エバグリーン講座開講(「現代日本産業論」、二七日まで)
一九八八年 (昭和六三)	3 入試の東京試験場復活 3 第二体育館(トレーニングセンター)新営 10・3 教員有志による「いま「天皇」問題を考える緊急講座」(七日まで、第二期は一月八日から一〇日)
一九八九年 (平成元)	1 情報処理センター設置 5・31 新長期構想委員会で短大を改組し、昼・夜間開講制を検討 6・23 国際交流委員会「小樽商科大学における国際交流の基本方針」

<p>一九九〇年 (平成二)</p>	<p>2 「大学入試センター試験」の導入、「昼間コース」をB日程とする。「昼間主」に「高校長推薦制度」を採用 4 「言語文化部」新設の構想 7 四学科・夜間主コース体制の概算要求提出 7 おたる潮まつり初参加 10 大学院整備充実検討小委員会の設置(一九九一年七月、中間報告)</p>
<p>一九九一年 (平成三)</p>	<p>2・8 大学審議会答申で「大学設置基準の大綱化・簡素化等」を提言、「一般教育」改革がスタート 7 創立八〇周年記念式典・祝賀会、貴重図書展示会、記念シンポジウム 9 五〇番棟取り壊し 9 将来構想委員会のなかに「一般教育問題等検討部会」を設置 9 研究科委員会、ボジウム 9 大学院整備充実検討小委員会の最終報告書(複数専攻化を志向、社会人受入れ)を承認 10 学科改組、四学科一課程、大講座制、夜間主コースを設置、短期大学部廃止、言語センター設置(学生受入れは九三年度から) 12・4 「教育・研究システム検討委員会」の設置</p>
<p>一九九二年 (平成四)</p>	<p>4・1 山田家正、第七代学長に就任(二〇〇二年三月三十一日まで) 5 「一般教育問題等検討部会」は「教育課程等検討委員会」として独立 7 山田学長「小樽商科大学の将来像」発表(「学報」第二二四号) 11・2 日英交流リチャード・ストリー記念講演会 11 教育・研究システム検討委員会「小樽商科大学の自己点検・評価について(最終報告)」を提出 12 自己評価委員会の設置 12・18 国際シンポジウム「ガットと農産物貿易の自由化」開催(一九日まで) 12・21 オタゴ大学と「学生交換協定」締結</p>
<p>一九九三年 (平成五)</p>	<p>4 将来構想委員会の発足(「新長期構想委員会は廃止」) 7 概算要求に「国際地域経済研究センター」構想を盛り込む 10・1 国際交流週間(日米交流マツキンソン記念講演会、日英交流ストリー記念講演会、日露交流ネフスキー記念講演会) 11 秋山義昭学生部長「本学における教育課程の改革について」(教育課程等検討委員会)「中間報告」、「学園だより」第九三号) 12・3 韓国・忠南大学と学生交換協定締結</p>
<p>一九九四年 (平成六)</p>	<p>3・10 短期大学部閉学式 3・17 大学会館開館式 3 自己点検・評価報告書「北に一星あり」第一集の発刊 4 入学者中(「昼間コース」)の女子の割合が三七％となる 5 教授会で教育課程等検討委員会「報告書」本学における教育課程等の再編について」審議、再検討 7・25 国際コンファレンス「転機に立つ金融・証券規制と資本形成―日米比較を中心に」 11 相撲研究会、第七二回全国学生相撲選手権大会団体戦Cクラスで優勝 12・1 中央バス小樽商大線開通</p>
<p>一九九五年 (平成七)</p>	<p>2・6 日英交流ストリー記念講演会 3・14 教授会、教育課程等検討委員会「報告書」本学における教育課程等の再編について」を審議、承認 4 入学者中(「昼間コース」)の女子の割合が四四％となる 5 東北财经大学と国際交流賞書調印 5 インターナショナル・ラウンジの開設 7・28 国際シンポジウム「北東アジア域内経済協力と企業の役割」(一九日まで) 12 地域経済社会システム研究会の発足</p>
<p>一九九六年 (平成八)</p>	<p>2 学内措置として「国際交流センター」を設置</p>
<p>一九九七年 (平成九)</p>	<p>2 学科別入試の導入(九八年度入試からは「昼間コース」の一般入試枠で、専門学校・総合学部の卒業生を受入れ) 4・1 大幅なカリキュラム改革の実施(「共通科目」科目群の導入、エバークリーン講座の単位化) 5・22 札幌サテライト開所式(北海道経済センタービル内) 6 F Dワーキング・グループ「小樽商科大学大学院の現状と将来」 10・23 ホームページ正式版公表</p>

年(元号)	事(アラビア数字は月・日を示す)
一九九八年 (平成一〇)	<p>1・21教授会、カリキュラムの再検討を目的とする「教育課程改善委員会」設置を承認 3小樽クリーンヒル留学生後援会の設立 4・1大学院に「課題解決型総合指導制」の導入 5金内辰明、第五回学生将棋名人戦で優勝 5・27教授会、将来構想委員会の「本学の理念に基づく教育方針」を承認 10・1学章(シンボルマーク)決定 10・26大学審議会答申「二十一世紀の大学像とその改革方策について——競争的環境の中で個性が輝く大学——」 11「ビジネス創造センター」構想固まる</p>
一九九九年 (平成一一)	<p>4・1経済研究所を改組して学内措置としてCBC(ビジネス創造センター)開設 4・1国際交流事務室・企画室・地域連携推進室の設置(横断的プロジェクト) 4・1学内委員会の整理統合を実施 7・30SCS開局式 10・1国際交流会館設置 10・1ハラスメント相談室設置 10・1短期留学プログラムの実施 10・20教授会、独法化に対する検討のための拡大将来構想委員会を設置 10「アントレプレナー(起業家養成・セミナー)CBC(ビジネス創造センター(省令施設)) 開催(二〇〇〇年三月にも) 11・1代議教授会設置 12・15ロシア極東大学と学生交換協定締結</p>
二〇〇〇年 (平成一二)	<p>1・1アメリカのオグレンソープ大学と学生交換協定締結 1・17オーストリアのウイーン経済大学と学生交換協定締結 1・26教育課程改善委員会答申「本学教育課程の改善について——商科系単科大学としての特長を生かしたカリキュラム——」 2・9拡大将来構想委員会「独立行政法人問題に対する学内での対応について」(「学報」第二五二号) 4・1運営諮問会議の発足(8・2、第一回運営諮問会議) 4・1CBC(ビジネス創造センター(省令施設))の設置 5・26文部省、国立大学の独立行政法人化を進める意向を表明(山田学長、調査検討会議の財務会計制度委員会の委員となる) 6教育課程改善委員会に「FD専門部会」を設置 10MBA構想作業部会(将来構想委員会内)「商科大学院構想の骨子」</p>
二〇〇一年 (平成一三)	<p>2・22外部評価委員会(「大学院」「国際交流」) 4・1カリキュラム改革(九七年度カリキュラムの見直し、卒業所要単位の引下げ、「外国語科目」のスリム化、「知の基礎系」「商学部基礎系」の導入、キヤップ制の導入) 4・1副学長二名を設置、学生部の事務局一元化 4・3研究棟(2号館)新営、国際交流会館増築記念式 6文部科学省「遠山プラン」発表、国立大学の再編・統合を促す 7・6創立九〇周年記念式典・祝賀会 9・6創立九〇周年記念国際シンポジウム開催 10・12創立九〇周年特別展示展開催(小樽文学館と共催、11・25まで) 12・1道内国立大学長懇談会で「六大学連合構想」研究着手の合意</p>
二〇〇二年 (平成一四)	<p>2広報誌「ヘルメス・クリエ」創刊 4・1秋山義昭、第八代学長に就任(二〇〇八年三月三十一日まで) 4・1事務組織の改組、学生何でも相談室設置、入試課・国際企画室設置 4・25運営諮問会議の答申「小樽商科大学の進めべき方向性について」 5・22教授会、秋山学長「再編統合の動きと本学の基本方針」を承認 6・26教授会、将来構想委員会「本学将来構想の基本的方向」を審議、承認 7・3「道内国立大学の再編・統合について」をテーマに教職員懇談会開催 8・15大学史料展示室オープニングセレモニー 10・1学生センター開設、就職支援室開設 10・16法人化移行のために、小樽商科大学移行準備委員会の設置 12道内国立大学長懇談会で六大学統合は困難と判断</p>

二〇〇三年 (平成一五)	3・31商業教員養成課程廃止 4・1国際(企画)課設置 6・25教授会、将来構想委員会「学部及び大学院の将来構想」を審議、承認 7FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第一集の発刊 9文部科学省に「中期目標・中期計画」の「素案」提出
二〇〇四年 (平成一六)	4・1国立大学法人小樽商科大学の発足、大学憲章制定 4・1アントレプレナーシップ専攻(専門職学位課程)設置、現代商学専攻修士課程設置、大学院商学研究科経営管理専攻募集停止 4・1「夜間主コース」のカリキュラム改革「夜間主コース」の定員削減(五〇名) 4・1教育開発センター設置 7・25ビジネススクール開校記念式典挙行 10・22北洋銀行企業再生寄附部門設置 12・1小樽・札幌商工会議所に参加
二〇〇五年 (平成一七)	2・14商大「雪あかりの路」開催(一八日まで) 3・17「小樽商科大学産学官連携ポリシー」の制定 4・1札幌サテライト移転(Sapporo5ビル) 4・1北海道中小企業家同友会に参加 5・20札幌サテライトオープンングセレモニー開催 6・18伊藤整生誕一〇〇周年記念講演会・シンポジウム開催(一九日まで) 札幌医科大学・北海道東海大学と連携協力協定締結 7・27「小樽商科大学知的財産ポリシー」の制定
二〇〇六年 (平成一八)	3・29北洋銀行と包括連携協定締結 4・20体育館竣工記念式典 5キャリア教育合宿研修(ルーキーズ・キャンプ)の実施 9・15「小樽商科大学利益相反マネジメントポリシー」の制定
二〇〇七年 (平成一九)	4・1大学院商学研究科現代商学専攻博士(前期・後期)課程設置 4・3小樽駅前プラザ「ゆめぼ」と開設 8創立百周年ロゴマーク・マスコミキャラクター決定 9・4室蘭工業大学と連携協力協定締結 10・1北海道薬科大学と連携協力協定締結
二〇〇八年 (平成二〇)	2・20『蟹工船』読書エッセーコンテスト(白樺文学館と共催) 授賞式開催 3学術成果コレクション「Panel」公開 3・27小樽市と連携協力協定締結 3・30北海道札幌市立高等学校九校と包括連携協定締結 4・1山本真樹夫、第九代学長に就任 6「よさこいソーラン祭り」で商大生チーム「翔楽舞」が敢闘賞・新人賞を受賞
二〇〇九年 (平成二一)	3・9道内五大学院(札幌医科大学・室蘭工業大学・北海道医療大学・千歳科学技術大学・小樽商科大学)による単位互換協定締結 5武田浩司、第六五回学生将棋名人戦で優勝 7・10地域研究会開所式 11・5創立百周年募金推進会議発会式
二〇一〇年 (平成二二)	4・5合宿研修施設開所式 8・9新史料展示室オープン 11・30(株)ほくほくフィナンシャルグループと包括連携協定締結

編纂委員会名簿

小樽商科大学百年史編纂委員会（平成18年7月19日～平成20年5月11日）

- | | | | |
|-----|--------|--------|-------------------------|
| 委員長 | 山本 眞樹夫 | 副学長 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 加藤 陸洋 | 経済学科 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 小田 福男 | 商学科 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 斎藤 由起 | 企業法学科 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 石井 利昌 | 社会情報学科 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 上野 耕三郎 | 一般教育等 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 鈴木 将史 | 言語センター | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 中村 秀雄 | アントレ専攻 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |
| 委員 | 荻野 富士夫 | 学長指名委員 | （平成18年7月19日～平成20年3月31日） |

小樽商科大学百年史編纂小委員会（平成20年5月12日～）

※小樽商科大学創立百周年記念事業委員会小委員会要項の制定に伴い、委員会の名称が変更された。

- | | | | |
|-----|--------|--------|------------------------|
| 委員長 | 和田 健夫 | 副学長 | （平成20年4月1日～平成22年3月31日） |
| 委員 | 鶴沢 秀 | 経済学科 | （平成20年4月1日～平成22年3月31日） |
| 委員 | 渡邊 和夫 | 商学科 | （平成20年4月1日～平成22年3月31日） |
| 委員 | 本久 洋一 | 企業法学科 | （平成20年4月1日～平成22年3月31日） |
| 委員 | 阿部 孝太郎 | 社会情報学科 | （平成20年4月1日～平成22年3月31日） |

委員	中川 喜直	一般教育等	(平成20年4月1日～平成22年3月31日)
委員	鈴木 将史	言語センター	(平成20年4月1日～平成22年3月31日)
委員	中村 秀雄	アントレ専攻	(平成20年4月1日～平成22年3月31日)
委員	荻野 富士夫	学長指名委員	(平成20年4月1日～平成22年3月31日)
委員長	和田 健夫	副学長	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	澁谷 浩	経済学科	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	加賀田 和弘	商学科	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	河野 憲一郎	企業法学科	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	木村 泰知	社会情報学科	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	杉山 成	一般教育等	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	山本 久雄	言語センター	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	中村 秀雄	アントレ専攻	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
委員	荻野 富士夫	学長指名委員	(平成22年4月1日～平成24年3月31日)
小樽商科大学百年史編纂室			
室長	荻野 富士夫	一般教育等	(平成18年7月19日～) ※正式発足日より
委員	今西 一	経済学科	(平成18年7月19日～)
委員	松家 仁	経済学科	(平成18年7月19日～)
委員	平井 孝典	研究員	(平成18年7月19日～)

【れ】

黎明会 134
歴史学 866・868・926
レッド・バージ 795
レントゲン検査 784

【ろ】

労働法 943
ローラー・スケート部 142・146
六月行動委員会 953
六大学連合構想 1073・1074
盧溝橋事件 498・504
ロシア語 64・127・865
ロシア文学 865
論理学 207

【わ】

Y・M・C・A 327
和歌山高等商業学校 161・209・238・277・
282・374
早稲田大学専門部商科 9
早稲田大学大学部政治経済学科 9

索引【事項】

満州事変 378・380・382・383
満蒙出征兵士家族慰問金募集 383
満蒙問題講演会 380

【み】

ミクロ経済学 1020
南亮三郎筆禍事件 160
未復員 644
民事法 966
民族研究所 477
民法 64・67・207・214・861・924・926・943

【む】

無試験検定 40・50・87・110・203・240・452・
454・456・543
室蘭工業大学 710・718・1039

【め】

『メルキュール』 875

【も】

盛岡高等農林学校 170・171

【や】

野外演習 231・232・346・348・352・363・428
夜間主コース 973・976・978・981・982・
984・998・1014・1019・1023・1029・1033～
1035・1049
野球部 142・145・252
役員会 1089
傭外国人教師 126・127
山口高等商業学校 5・7・9～11・32・37・40・
41・72・85・86・99・114～116・126・162・
165・166・168・172・184・200・201・208・236
～238・265・277・283・317
山口大学経済学部 981

【ゆ】

有価証券論 837・943
『雄弁』 235
ユニオン・ツサイタイ 327

【よ】

予科戦 633

横浜高等商業学校 161・184・192・209・
222・236～238・246・251・277・336
よさこいチーム「翔楽舞」 1085
ヨットハウス 849
米沢高等工業学校 20・23・29・30・32・36・
40・178
四学科・夜間主コース体制 961・979・987・
1004・1005・1010
四者連合 946・947

【ら】

ラグビー部 252・310
ランゲージ・センター 831・838・839・845・
849

【り】

リカレント教育 1072
陸鷲 537・582
履修指導教官制度 1030
理髪部 491
リベラル・アーツ 432・722
留学生 1044・1053・1082
流通システム論 1029
留年 440・925
寮祭 789
『凌雪』 551
『緑丘アカデミア』 874・875
緑丘会寄贈講座 835・836・877
緑丘会館 999
緑丘会 419～421・552・998・1000
『緑丘学人』 300
緑丘吟社 154・155・327
緑丘食堂 315・316
緑丘戦没者記念塔 584・943
緑丘の沈滞 194・195・741・806・807・853・
874
緑丘ルネッサンス 925・926
臨時講演 60・73・74・105
臨時商業師範科 176
臨時増募 900・915・975・978
臨時徴兵検査 451・535・547
臨時補習科 451・452
倫理学 133・864

【ふ】

ファカルティ・デイバロップメント 1030・1046
 副学長 1091
 福島高等商業学校 238・277・161
 複数学科志望制 1030・1035
 仏教青年会 327・330
 物理学 739
 『不凍港』 890
 フランス語 66・109
 プロレタリア文学 303・365・369・374・895
 文学論 835
 文化講座 649
 文芸研究会 327・338・363・366・368・369・371・372・374・375
 『文芸春秋』 512
 文献講読 927
 文行寮 138・139・550・552・787
 文明史 201

【へ】

兵式訓練 229・234
 ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学 1053
 ヘルメスの杖 53
 編纂部 142・327・338
 弁論部 56・58・107・151・152・175

【ほ】

貿易論 868
 法学概論 864・1029
 法学通論 64・67・79・207
 防空訓練 532
 報国隊 449・500・501・503・507
 報国団 472・500・501・503・528・555・556・558・612・673
 宝生会 327
 法律同好会 327・329
 ホースケ 296
 ボート部 633・676・678
 簿記 65・66・88・112・191・214・767・862・923
 簿記論 1029
 『北辰会報』 551

北大 751
 北大予科 239・311・323～325・452・540・556・679・798
 北斗寮 137・138・141・540・550～552・685・787
 北米系下見板コロナル建築 29
 保険論 65・109・201・207・736
 補講 951・952
 北海商業 385
 『北海道樺太経済資料目録』 283
 北海道学芸大学 718
 北海道経済学会 777
 北海道経済研究所 267・282・283・285・462・481～483
 北海道経済研究センター 839
 北海道経済事情研究会 385
 北海道経済事情調査会 327・329・338
 北海道産業連関研究会 883
 北海道産業連関表 742・883～885
 北海道新制大学設置期成会 710
 北海道地区学校集団適格審査委員会 661・662・727
 北海道立小樽中学校英語科教員養成所 645
 北海道労働科学研究所 665
 『北方経済月報』 590・591・654・655
 『北方経済研究』 482・570・572・658・776
 北方経済研究所 484・572・574・616・654・656・658
 『北方経済研究所報』 574
 『北方文芸』 363～367・369・373・374
 補導委員会 812・876・947～949

【ま】

マアキユリ山 52
 マーケティング・マネジメント専攻 1047
 マクロ経済学 1020
 『松本栄司遺稿集』 337～339
 丸井呉服店 296・313・315
 マルクス経済学 867～869・933
 『マルサス研究』 267・290
 満州建国大学 476・477
 満州国 379～382
 満州産業建設学徒研究団 382

索引【事項】

遠山プラン 1072
特別講義制度 376・377
特別防護団 507
独立行政法人化 1031・1065～1070
独立団体聯合会 327
『土功組合の研究』 267・284・285・657
図書館 31・44・54・92・93・235・768・958
図書同志会 684
特攻隊 582
『囚はれたる経済学』 276
取引所論 65

【な】

内地研究員 270・271・776
内地留学 839
長崎高等商業学校 5・7・10・11・27・37・40・
72・84～86・95・99・126・162・165・166・
168・171・172・184・200・201・209・237・
238・265・277・287・298・299・317
長崎大学経済学部 981
中島飛行機製作所 565・580
名古屋高等商業学校 33・72・90・102・161・
178～181・185・191・192・237・238・251・
277・374
奈良女子高等師範学校 20

【に】

新潟医学専門学校 20
二学部四学科 962
「二学部六学科」構想 907・913・916
二学部構想 742・743・954
二学期制 194・201・202・302・340
二〇〇一年度カリキュラム 1026・1028・
1030・1033～1035・1063
二〇〇四年度カリキュラム 1034
日米安全保障条約改定 887
日本学術振興会 283
日本経営学会関東部会小樽大会 267・287・
288・571・668
日本経済史 926
日本語 986
日本統計学会 571
『日本評論』 512
日本文化史 834

入学式中止 934・935
入学主幹 1065
入試課 1065
入試倍率 900・981・995
入寮選考問題 931・933・956

【ね】

年末賞与 128・130

【の】

農業及殖民政策 64・74・201
農業経済学 822
農業政策 210
ノート制度 82・83・220・302・631・632・859
ノート制度批判 219

【は】

配給論 873・923
配属将校 229・362・382・499・530・531・
535・591
破壊活動防止法案 794・797・798
博士課程 909
博士後期課程 1049・1050
函館区 13・14・18・22
函館商業 240
函館大火募金 385
破産法 199
パタゴニア遠征 958・959
ハッピー食堂 313
破防法案条文研究会 797
反戦闘争委員会 938

【ひ】

比較文化 1055
彦根高等商業学校 161・238・246・277
ビジネス創造センター(CBC) 1036・1039
～1041・1046・1062・1064・1070・1088
非常勤講師依存率 1023・1025・1028・1030
一橋大学 734・901
一橋大学大学院国際企業戦略研究科 1046
緋牡丹社 953
標準教授要綱 438・517・518・520・532～
534・625
ピリグラム・クラブ 327

大学入試センター試験 998・1075
 大学評価・学位授与機構 1059・1060
 大学臨時措置法案 937・939・940・942・943
 代議教授会 1061・1062
 大衆団交 943・948～950
 代数幾何 66
 体操 65・112
 大東亜共栄圏 573・576
 大人数教育 1013
 タイプライター室 255
 対面式 799
 大陸科 442・446・603・625
 体力章検定 495
 高岡高等商業学校 9・161・192・238・277
 高松高等商業学校 161・238・277・374
 多喜二碑 896・897
 「拓殖経済貿易科」構想 167・170
 煙草 299
 玉の井会 157
 玉の井寮 138・255・550・552・787・789
 単位制 735
 短期大学部 738・744～748・766・823・824・
 856・900・909・911・925～927・973・976・
 981・982
 短期留学プログラム 1053・1055
 男女共学 613～615
 端艇部 142
 鍛錬部 556
 単独昇格 702・704・705・712・714・716
 断髮令 496～498

【ち】

治安維持法 797
 地域経済共同研究センター 1036・1038
 地域経済研究資料センター 975・976・
 988・989・1036・1037
 地域経済社会システム研究会 1038・1039
 地域経済センター 992
 地域連携推進室 1063・1064
 竹友会 327・330
 知識情報論 981
 「知の基礎」系 1027・1034
 智明寮 846・848・889・890・911・931・933・
 954・955・995

『中央公論』 235・298・512・683
 中華民国語 207
 中期目標・中期計画 1067・1068・1072・
 1086・1087・1089・1094
 忠南大学 1056
 長期履修学生制度 1034
 朝鮮語 986

【つ】

ツカム 204・440
 津軽街道 21・252

【て】

定員削減 1064・1065
 定期戦 798・799
 庭球部 142・324
 テーラー・システム 88
 哲学 210
 哲学概論 201
 哲学史及哲学概論 207
 手塚文庫 529
 手続法 199・210
 鉄道論 65
 電子計算機 840・841・885
 天皇機関説 429

【と】

ドイツ語 64・82・108・121
 東亜科 442・603・625
 東亜事情研究会 327・329・381・383
 東亜同文書院大学 477・525・576
 東京経済大学 719・726
 東京高等商業学校 5・7・8・126・161
 東京高等商業学校専攻部 106・108・111・
 114・166・269
 東京試験場 238・454・456・544・995・998・
 1080
 東京商科大学 99・250・246・252・735・771
 東京商大専門部 238・251
 東京商大予科 299
 統計学 207・210・861・1020
 東北財経大学 1056
 東北帝国大学 20・99
 東北帝国大学農科大学 20・24・27・28

索引【事項】

スキー部 325・556
ストーム 140・141・789・799・830
スペイン語 440・441・447・637
相撲研究会 1083・1084
相撲部 142・146

【せ】

税関及倉庫 65
生協 786・928～931・943
生協準備会 928
正気寮 138～140・293・550・552・787・848
生産管理 924
成人教育講座 387～390・399・616
生徒心得綱領 47
生徒主事 373・403
生物学 739
清明寮 550・553・689・787
西洋経済史 926
『世界』 683
世界文化史 834・861・862
石炭不足 629
石鹼工場 61・89・175・913
節米切符制 488
ゼミナール 200・207・210・221・224・226・
522・563・763・764・811・861・870・872・
915・918～922・924・937・1033
ゼミナール協議会 874・875
ゼミナール共闘会議 945・947・952
ゼミナール研究発表会 790～792
ゼミ有志連合 942・950
セメスター制 1030・1031
『セルパン』 298
選科 60・73～75
全学ストライキ 933・935・937
全学闘 932・935・936・938・940～943・945・
950
一九九七年度カリキュラム 1017・1018・
1021～1023・1025・1026・1028・1031
「専攻科」設置案 170・172
専攻科 738・809・810・913・915
戦死 506・581
専修科 599・600・644
選手制度 307・312
戦勝祝賀会 512

『戦争と経済』 462・466・469
選択科目 194・199・201・207・208・210
全日本学生自治会総連合（全学連） 792・
795
専門学校令 5
専門共通科目 1017・1020・1030
専門職大学院 1032・1034・1040・1086
占領軍の接收 601

【そ】

早期卒業制度 1030・1035
総合科目 993・1018・1027・1029
創立二五周年記念 409・412・416
創立三〇周年記念 416・450
創立三五周年 680
創立五〇周年記念事業 846
創立八〇周年記念事業 992
『総力戦経済の研究』 462・466・530・570
組織と情報総論 981
卒業所要単位 752・767・860・918・919・
985・1014・1017・1020・1022・1026・1056
卒業論文 72・77・78・93・225・228・439・
872・873
ソフトウェア科学 981

【た】

第一四臨時教員養成所 194・247・259・
263・333・391
第二次募集 996・997
第五寮 534・550・551・553・689
体育 762・767・862・863
体育館 846・849・911
大学院整備充実検討小委員会 1042
大学改革 1008・1009・1068・1086
大学管理法案 795
大学祭 789・792・794
大学昇格運動 145・162～164・181・195・
212・265・294・424・425・633・647・690・
695・697・700・709
大学制度検討委員会 917・950
大学設置委員会 714・716
大学設置基準 1009・1057
大学設置基準の大綱化 994・1011・1012・
1014・1015・1017・1021・1023

商学概論 917・1029
 奨学金 784
 商学研究科 909・910・913～915・1004
 商学研究科・経営管理専攻 1042・1043
 商学コース 965・966・992
 『商学討究』 104・185・194・266・269・277
 ～279・282・407・420・462・574・658・776・
 883
 「商学部基礎」系 1029・1034
 商科系単科大学 1006～1008・1021・1024・
 1025・1032・1050・1083・1087・1089・1093
 商業英語 395～400・428・636・924
 『商業英語通信軌範』 266・396～398・617
 商業概論 861・863・864
 商業科教育法 809
 商業学 66・82・88・121・122・133・187・191・
 214・767
 商業学科 921・922・960・961・965・976・
 978・991・992
 商業学校出身者 85・86・199・240・243
 商業教員養成課程 809・810・922・1006・
 1023・1033・1035・1064・1075
 商業経理学 65
 商業算術 63・66
 商業史 74
 商業実践 60・65・66・70～72・75・80～82・
 112・172・181・187・217・218・436・438・
 448・477・479・631・634・969
 商業実践室 255・269・417
 『商業実践必携』 434
 商業数学 121・811・842
 商業政策 64・74・207
 商業通論 65・79・207
 商業地理 63・108
 商業美術研究会 327・330
 商業文 62・66・112
 商業簿記 207
 商業歴史 63
 証券金融論 837
 証券講座 837
 証券市場論 837・923・926
 商工経営 90・767
 商工実践 225
 商工実務 201

商事法 966
 商大一〇年計画 841・907・910
 商大闘争 917・918・934・939・945・953
 聖徳無辺 418
 商品学 38・62・64・74・111・113・122・386・
 587・735・739・811・912・923
 商品実験 37・38・61・62・67～70・75・100・
 111・112・122・123・135・429
 商品実践 37・38・61・62
 商品陳列館 31・44・54・94・254・283
 商法 64・67・207・214・861・905・944
 情報化推進室 1064
 情報システム 981
 情報処理入門 1027・1029
 将来計画委員会 907・910
 将来構想委員会 1005・1006・1014・1025・
 1032・1047・1048・1067
 職員消費組合 652・682
 殖民政策 210
 食糧増産 489・509
 食糧難 671・672・684
 書庫 255
 女子学生 956・957・998・1078・1080・1081
 女子入寮問題 955・956
 白樺文学館 1084
 市立小樽中学 240・251・385
 進学 96・99
 進級バー 917・920・940・947・948・1020・
 1026・1029
 新「三学部五学科」案 972
 新長期構想委員会 961・962・965・971～
 976・982・984・990・999～1001・1005・1012
 『人文研究』 777
 新聞『緑丘』 299・607
 心理学 199・201・207・210・835・864

【す】

水運論 65
 水泳部 325
 推薦入学制度 927・982・998・1080
 水熱光費負担問題 930・956
 数学 862・864・915・917
 数理統計学 842・871・923
 スキー教練 231・507・530

【さ】

サークル会館 954・955
「再試験」制度 203
財政学 64・74・207・767・924
再編・統合問題 1031・1035・1070・1072・1074
札幌生 1078～1080
札幌一中 240
札幌北高 750・854
札幌区 13・22
札幌サテライト 1038～1040・1044～1046・
1062・1064・1069
札幌西高 854
札幌二中 240
札幌南高 750
産学官連携 1041・1042・1064・1088・1094
産学協同 931・934
産学共同路線 909
三学部構想 909
「三学部五学科」構想 960・962・963・965・
966・971
三学部六学科の編成 961
産業経済視察旅行 770
産業心理学 924
産業調査会 282
産業調査報告 78
産業調査論文 284
山上グラウンド 194・254・258・302・306・
427・502・508
三大高商 426・560
三無会 942・945
残留婦人・孤児 783

【し】

詩吟会 327・330
地獄坂 53・54・157・1082
自己点検・自己評価 1028
自己評価委員会 1014・1058・1059
自主講座 926・939・943・945
市場論 207
思想事件 403
思想善導 375・377・378・496
『思想問題研究』 663・664
自治委員会 770・792・793・795

自治会 888・928・932・934・954
実業学校令 5
実践工場 255・417・969
実践調査報告 75～77・93
室内プール 417・493・738
指導教官制 375・376
支那語 64・207
地均し 26・27
事務棟封鎖 933・936～938・940
事務部 623
社会科学概論 835・868
社会科学系総合大学 1004・1005・1007
社会科学研究会 302・342～345・351・353
～361・372・375・797
社会学 199・207・210・864
『社会経済研究』 657～660・776
社会経済研究所 656・658・660・667
社会情報概論 1029
社会情報学科 978・979・981・985・1020・
1075・1078
社会政策 199・868・924
社会と金融 1029
社会法 966
シヤンツェ 257～259・417・510
修学旅行 94～96・320～322・504・770
蹴球部 142
修業年限延長問題 212
就職 96～98・100・103
就職委員会 876
就職「黄金期」 456～458
就職難 243・244・246・922
修身 62・82・108
集中講義 105・761
柔道部 142・147・148・254
授業時間割 754
授業料値上げ 692・797・1092
出欠席調査 756・860
出席票 768
巡回講演 152・175・320・330・331・800
純粹経済学 527
生涯学習振興係 988・1065
生涯教育 984
商学科 978・979・985・1020・1055・1075・
1078

現代商学専攻 1047・1049・1050
 現代商学専攻会議 1090
 剣道部 148・254
 憲法 906・924
 『乾甫式辞集』 102
 健民修練 532

【こ】

興亜勤労報国際隊 509
 興亜研究科 535
 『広域圏の経済理論』 569・665
 講演部 327・330
 校歌 317～320
 交換協定締結校 1053
 交換留学生 1056
 校旗 412
 工業経営専門学校 559
 工業政策 64・73・75
 工業専門学校 559
 工業大意 37・63・73～75・131
 皇国経済学 566・567・570・659・664
 甲子園 325
 高商アカデミズム 1005
 高商寄宿舎速成会 137
 高商倶楽部 256
 高商射撃会 327・330・381・383
 高商石鹸 90・91・176
 高商ノート 491
 厚生会 786
 交通論 207・864
 講堂 255・335・911
 高度職業人 1038・1040・1046・1047
 神戸高等商業学校 5・7・8・38・41・95・99・
 106・114・115・126・165・170～172・238・
 251・253・277
 神戸商業大学 252・718
 神戸大学 719
 神戸大学大学院経営学研究科 1046
 公法 966
 稿本「緑丘学園三十五年史」 14・16
 公民教育講座 388・389
 校門から営門へ 549
 『校友会雑誌』 69・70・76・87・94・143・
 145・151・157・162・192・193・197・271・

299・300・363・798
 校友会 142・305・307・308・311・312・675
 効率化係数 1092
 講和問題 782・783・795
 コース発展科目 1029
 語学乙類 380・409・442・444・446～448・
 456・520・521・543・549・561
 語学甲類 445・451・456
 国語漢文 66
 国際化 990～993・1065
 国際企画課 1054・1065
 国際企画室 1054・1064・1065
 国際客員研究員規定 1054
 国際協会（旧国際連盟協会）高商支部
 327・379・381
 国際経済 872
 国際経済法 966
 国際経済論 923
 国際交流 968・970・1033・1052・1053・1059・
 1062・1069・1088・1095
 国際交流委員会 991・1051・1052
 国際交流会館 1053・1055
 国際交流科目 1055・1056
 国際交流事務室 1054・1063
 国際交流センター 1053・1054
 国際地域経済研究センター 990・1010・
 1036
 国際法 761・917・966
 『国際貿易活法』 398
 国史 242
 国防競技 518
 国民精神総動員 497・507
 国立大学協会 1066・1069・1072
 国立大学法人 1008・1035・1065・1066・
 1072・1074・1086・1088・1090
 五者懇談会 1091
 古瀬・麻田ブラン 820・822・823・826・832
 ～834・840・850・852・859
 『国家と経済』 466・467・469・471
 『国家と戦争』 462
 五年制夜間大学 825
 個別科目 1017・1018
 五楽園 801

索引【事項】

京都帝国大学 38・116～118
京都法政専門学校経済科 9
教務委員会 808・812・916
教務部 736
教養教育 1017・1023・1025～1027・1032・
1033・1059・1063
玉音放送 590
桐生高等染織学校 178
『キング』 235・298
銀行及外国為替論 65
銀行論 924
勤惰 434
勤務評定反対運動 887
金融機関論 822
金融経済論 758・864
金融論 207・873・924
勤労働員 508・524・532・558・563・564・
576・579

【く】

組主任制度 404
繰上げ卒業 448～451・512・517・522・535・
538・541・546・594～596・645
栗林会館 496・766
軍事教練 229・232～234・339・346・353・
362・363・448・498・506・507・530・532・
563・581・591・594

【け】

経営学 923
経営学原理 1029
『経営学講演集 産業統制研究』 290
経営管理論 917・1029
経営経済学 862
経営と会計 1029
経営評議会 1089・1090
経営法学コース 956・958・960・961・965・
966・972～975・991・992
経営論 207
慶応義塾理財科 9・238・246
計画数学 981
『経済往来』 235・298
経済学 133・835
経済学概論 864・868・915・917・968・1029

経済学原論 207・861・863
経済学史 210・811
経済学特殊問題 869・870
経済学科 921・922・933・975・976・978・
979・985・992・1020～1022・1055・1075・1078
経済研究会 327
経済研究所 456・481～484・572・654・657・
658・660・740・741・776・1010・1036・1037・
1039
経済原論 64・109・216・767・811・835・852・
861・868・909・921・924・968
『経済再建の諸問題』 660
経済史 924・1020
経済史概論 862
経済政策 864
経済変動論 811・909・924
経済法 835・966
警察官職務執行法改正案反対運動 887
計算学 66
計算機センター 841・849・911
計算機論 842
計量経済 873
撃剣部 142
結核 340
原価計算 811
研究科 422～424・695・696・699
「研究科」設置構想 264・265
研究科の設置 961
研究基金募集 405
研究指導 433・434・451・520・626・634・
927・1020・1029
研究棟 850・911
研究費 426・652・777・778
研究部 142
健康科学 1027
健康診断 492
健康スポーツ 1055
言語センター 979・985・986・1006・1025・
1028・1032・1059
言語文化部 985・986
懸賞調査論文 481
現職警察官聴講問題 815・817・818・886
現代社会システム専攻 1048・1049
現代社会の諸問題 1027・1029

学科発展科目 1028
 学科別入試 1022・1029・1034
 合宿所 954
 合併教室 254
 『蟹工船』 370・372・1085
 『蟹工船』 エッセー・コンテスト 1084・1085
 カフェ 296・298
 貨幣及銀行論 73
 貨幣論 64・207・217
 カメラ同好会 327
 カリキュラム改革 197・205・211・427・431・532・533・625・812・858・861・863・865・915・917～920・922・925・927・950・1012・1014・1016・1017・1029・1031・1091
 仮卒業証書授与式 540
 為替論 207
 検閲 304・305
 館外貸出 768
 監査論 835・863
 監生部 48・373
 完全就職 770・772・774・875・876
 カンニング 205
 幹部候補生 536
 管理科学 838・843・913・981
 管理科学概論 917
 管理科学研究施設 831・839
 管理科学特講 917
 管理科学科 840・842・844・914・919・921・922・965・972～975

【き】

企画室 1063
 企業実践 61・62・67・72・88・90・100・138・175・181
 企業分析 837
 企業法学科 978・985・1020・1021・1075・1078
 汽車通学 555
 基礎教育科目 919・1020
 基礎数学 1027
 基礎ゼミナール 1013・1018・1019・1027・1029
 『北回帰線』 368

『北千島漁業の経済調査』 285・286
 『北に一星あり』 1004・1005・1014・1015・1022・1023・1045・1046・1052～1054・1056・1058～1060・1064・1065
 北に一星あり 184
 北の早慶戦 324
 其湛会 181
 鬼頭文庫 721
 木村私案 833・834
 キャップ制 1026・1028～1031・1083
 九州帝国大学 20
 弓術部 142
 旧短大校舎取りこわし 956
 日本館の保存 912
 教育・研究システム検討委員会 1057・1058
 教育学 207・852
 教育課程等検討委員会 1012・1014・1016
 教育課程改善委員会 1023・1025・1027・1028・1030
 教育基本法 906
 教育研究評議会 1089・1090
 教育実習 809
 教育心理 809
 教育勅語 607
 教育統計学 809
 教学錬成 551
 教官会議 737
 行啓 30・45
 行幸 416・417
 行幸記念日 418
 共済組合 682・683
 共済班 491
 共済部 297・310・313～317・491
 凶作地救援運動 385
 教室自主管理委員会 947・948・950～952
 教授会 736・737・807・812
 『教授要目』 863
 教職員組合 814・815・818
 教職追放令 661
 教職不適格 665・666
 共通一次試験 957・995～998
 共通科目 1017・1018・1027
 教導部 403～405・408・589
 京都試験場 454・456・544

索引【事項】

小樽公民会 390・391・616
小樽商科大学移行準備委員会 1070
『小樽商科大学開学記念論文集』 774
小樽商科大学学則 734・757
小樽商科大学憲章 1088・1094
小樽商科大学後援会 837・838
小樽商科大学産学官連携ポリシー 1042
小樽商科大学設置申請書 706・707・709・
711・716・720・723・724・727
『小樽商科大学創立五十周年記念論文集』
883
小樽商科大学平和を守る会 792・795
小樽商業学校 240・256・263・385
小樽商大短期大学部設置期成会 745
小樽スキー倶楽部 395
小樽中学 240・385
小樽潮陵高 750・854
帯広畜産大学 718・751
音楽部 327・328

【か】

海外研修制度 991
海外証券事情 837
開学式 732・734・752
会計学 207・736・758・862・868・872・923
会計監査 767
会計情報論 981
外国語科目 1028
外国語劇 149・150・332・334・336・412・
680・781・791・792
外国語実験室演習 845
外国語部 142・143・327・332
外国事情 1056
外国人特別選抜 1053
外国人留学生 1055
外国貿易実務 207
外国留学 107・110・115
会社法 871
『改造』 235・298・512・683
外部評価 1058
外部評価委員会 1059
課外講義 648
化学 735・739
科学研究費 667・776

香川大学経済学部 981
夏期短期語学留学 1055
『学園だより』 1081
学園民主化 602・605・607・610・620
拡充資金 739・740・785
学術研究資金 267
学術交流係 988
学術国際交流係 1038・1052・1065
学生委員会 676・792～794・886
学生会館 495・839・840・846～849・911・
928・930・931・953・955・958
学生義勇軍 509
学生茶房 683
学生部 623・624・736
学生思想問題 372
学生社会科学連合会 353・355・361
学生消費組合 314
学生食堂 785・786
学生書房 683・691
学生大会 793・818・830・887
学生大会実現実行委員会 950・951
学生の転換方式 724
学生ホール 490・491・786
学生論 485
拡大教授会 812・818・837・861
拡大将来構想委員会 1067・1068
学長選考規則 807
学長補佐室 1063・1064
学徒至誠会 504
学徒出陣 537・540・549・584・594
学徒隊 589
学部・大学院合同教授会 1090
学部教授会 1090
学部大学院一貫教育制度 1049
学問原論 1027・1029
学問論 1018
学友会 612・623・633・673～675・792・793・
886
鹿児島高等農林学校 20・23・32・170・171
仮装行列 149
課題解決型総合指導制 1040・1044～1046
学科課程編成委員会 844・916
学科基幹科目 1028
学科長会議 1060・1061・1067

索引【事項】

【あ】

秋田鉱山専門学校 29・30・32・36・41・170・
171・717・718
悪太郎 293・296
アルバイト 297・672・673・784・785・889・
891・1077・1079
アントレプレナーシップ専攻会議 1090
アントレプレナーシップ専攻 1008・1040・
1046・1048・1049
アントレプレナー・セミナー 1040
アントワープ高等商業学校 120
安保闘争 893

【い】

『伊太利亜の旅』 276
一県一大学 717
一般教育改革 994・1006・1010・1012
一般教育問題検討部会 1012
一般教養 733・735・752・758・776・836・
852・861・933
移転問題 998・1000・1001
インターナショナル・ラウンジ 1053
インターンシップ 1030・1055

【う】

上田蚕糸専門学校 30・32・36・171
上田繊維 717・718
海鷲 537・582
運営諮問会議 1047・1062・1070
運営費交付金 1087・1092
運動会 148・149

【え】

映画「きけわだつみの声」 795
映画協会 327
英語科教育法 809
英語講習会 391
Aクラス 207・210
『エコノミスト』 298

越冬資金 652
閲覧禁止図書 372・510・511・607
エバーグリーン講座 992・993・1018・1027
Fクラス 442・603
MBA構想作業部会 1047
演劇研究会 327
援農 524・558・564・576・578・581・595

【お】

応援団 313
応援団長 311・312
応召 474・475・558
応用数学 843
応用理化学 64・66
大分高等商業学校 237・238・277・161
大分大学経済学部 981
大倉高等商業学校 543・719・726
大阪経済大学 719
大阪商科大学 252
大阪商業学校 8
大阪市立高等商業学校 99・162・238
『大西猪之介経済学全集』 107・185・193・
266・270・275・276・303
大西教授記念文庫 272・273
沖縄留学生 856・857
屋内体育館 738
オタゴ大学 1053・1056
小樽学 1018
小樽区 13～15・17～19・21～23・32・36
小樽グリーンヒル留学生後援会 1055
小樽経済専門学校 558～561・568・594・
654・699・724・748～750・770
小樽経済専門学校昇格 小樽商科大学設置
期成会 697・721
小樽経済専門学校聴講生規則 613
小樽経済大学 706・718・719
小樽啓明会 134・135・273
小樽高商軍教事件 227・229・302・347・
348・350・352・506・510・816
小樽高等商業学校昇格期成会 173～175

索引【人名】

山村良三 405・623・727・732・736・772
山本清 1072
山本宗二 246
山本眞樹夫 1007・1008・1046・1050・1062・
1073・1090～1094
山本安次郎 215・216・342・359
山本安英 364

【ゆ】

湯原元一 16・17・21・177
湯本燭夫 101

【よ】

横川義雄 669
横田弘之 448・462・465・528
横溝直也 65
吉井豊造 74
吉田絃二郎 235
吉田幸蔵 474・504
吉田秀夫 193・290・291・469
吉武清彦 870・873・924
吉野作造 134
吉野隆吉 427・666
四ツ谷勇 326
米田隆吉 325
米山米鹿 232・339・382

【り】

リカード 789
笠信太郎 835・836

【わ】

若松清太郎 223・261
和田完 958
和田健夫 1075・1077・1078・1086
和田徹三 217・340
渡辺兵四郎 17・19・177
渡辺龍聖 13・25・29・30・32～36・38・39・
41・184～188・191・192・214・277・279・395
～397・401・404・411・412・414・415・417・
422・752・1010
度会丑春 284
ワルラス 432

622・623・636・638・649・656・688・736・
738・740・753・759・773・776・784・812・
818・819・822・844・880・902・907・916
松川嘉太郎 697・705
マッキンノン 63・125・216・255・261・324・
448・479～481・513・515～517・618
マックス・ウェーバー 683・764
松田源治 401
松田新 76・79・165・408・420
松橋忠光 541
松原地蔵尊 154・155
松本栄司 337～339
松本源 64・69・132
松本源太郎 10
松本順吉 21
松本忠司 865・968
松家正 683
間宮健三 366・367
間宮茂輔 364
マルクス 638
マルサス 522
丸谷喜市 571
丸山定夫 364
丸山泰男 389・558・563・567・574・578・
590・610・623・626～628・637・641・655・
657・659・661・671・681

【み】

三浦新七 63・74・105・175
三浦美平 48
三木清 512・686
水垣敏正 214
南亮三郎 78・99・107・160・193・216・223・
266・268・270・273・276・278～280・290～
292・337・339・351・387・389・402・406・
407・414・415・446・448・462・468・470・
484・515・521・530・557・566～568・571・
572・574・576・580・619・620・623・626・
627・637・639・642・643・656～658・661～
665・667・670・696・794・819
峯村文人 475・626・635・638・648・649・
660・661・753・780・800
三船久蔵 147
宮内陽子 771

宮岡伯人 958
宮城音彌 826
宮崎光彬 993
宮沢光一 571・581
宮島巖 327
宮脇富 661

【む】

務台理作 714
村井顕八 147
村瀬玄 65・72・112・300・301・346・349・
352・387
村松恒一郎 642
室谷賢治郎 201・212・223・228・268・275・
279・287・290・292・378・387・389・390・
430・434・461・467・470・483・501・530・
571・574・598・600・619・620・623・626・
627・632・634～637・639・642・648・649・657
～670・696・753・819・870・871・880

【め】

目黒三郎 64・109・192
メーチン 480

【も】

藻利重隆 961
持木恒二 584
モリスン 261
森戸辰男 664
森本厚吉 39・105

【や】

八木又三 39・51・55・63・106・108・109・
132・395
矢島武 641
八十乃島 1083
山内松吉 405
山口梅蔵 129
山田家正 1005・1006・1008・1010・1012・
1023・1036～1038・1040・1058・1060・1062・
1063・1066・1068～1070・1073
山田勝麿 1062
山田雄三 640・642・761
山根銀二 837

索引【人名】

735・763・781・805・808・812・868・870・
880・961・967・968・991
畠山次郎 623
服部之絵 798
服部政一 218・269・283～285・289・429・435
花田稔 747
花村哲夫 418・441・461・464・626・627・
639・645・753・880
羽仁五郎 798
馬場道夫 924
浜林生之助 63・113・114・132・133・217・
222・223・239・255・261・266・270・366・
371・389・390・396・403・413・417・462・
473・474・501・543・600・616・618～620・
626・627・638・639・642・661・682
浜林正夫 634・635・642・643・735・764・
783・812・814・818・829・834・843・870・
881・896・924・926
速川浩 475・634～636・649・736・753・812・
865・881
早川三代治 529・571・624・634・636・638・
649・727・736・740・741・753・757・765・
774・776・777・805・811・812・880
早見弘 870・921・924・967
原憲一 626・635・736
原岡武 223・379・380・381・390・445・447・
448
ハロッド 871
伴房次郎 36・64・67・79・114・116～119・
130・131・179・394・400・401・404・412・414
～416・619・622・661・741・829

【ひ】

東謹一 600
久木久一 223・289・430・435・471・475・
476・643・736・781・811・870・880
久武雅夫 641
久留正道 21・27
久野光朗 870・923・955
土方与志 364
日高第四郎 703・718
火野葦平 512
比良暮雪 155
平尾丹治 222・223・245

平田東助 15
平塚勇二 581
平野義太郎 665
平間義 416
広田二郎 812・881・894

【ふ】

ファミンジャー 430・431
フィギス 270・329
フート 63・65・72・120～122・124・125・127
深井明雄 521・563
深草厚之 232・381
福田徳三 92・105・110・134・275・390・642
福光堅平 340・341
福本和夫 511
藤井栄一 901・937・960・961・966・968～
972・976・990～992・996・1000・1001・1012・
1051
藤沢正也 822・868～870・873・881
藤田稔 39・41・112
布野栄一 895
フランク 64・69・122～127・135・480・587・
588
古川栄一 669

【へ】

ヘルセット 258

【ほ】

堀経夫 290

【ま】

マーシャル 764
前田加奈 881
前田利道 814・822・829・881
牧野顕吉 582
牧野健四郎 263・303
牧野伸顕 6・18・24
正木悦郎 958
正木勝俊 474
増井幸夫 996
増田甲子七 697
松尾正路 366・389・413・429・461・468・
469・522・547・553・566・611・619・620・

【と】

土肥恒之 867
 道場七郎 509・582
 遠山茂樹 798
 遠山敦子 1072
 富樫長吉 441
 徳富蘆花 235
 徳永近之助 65
 戸坂潤 683
 戸田正志 208・213
 土橋信男 1059
 苫米地英俊 55・63・66・80・82・96・106・
 109・113・132・147・187・188・196・211・
 213・223・224・236・239・245・252・261・265
 ～267・279～281・287・301・308・321・351・
 359・379～381・385・389・390・597・602～
 604・607・610・611・616～618・620・622・
 655・661・663・666・695・698・699・705・
 713・741・745
 戸水寛人 8
 鳥谷剛三 610・627・641・655

【な】

永井道雄 826
 長尾義三 389・524・565・571・574・601・
 627・635～638・641・649・651・653～657・
 659・661・667・670
 中河与一 512
 中川良延 923・924・926・946
 中條精一郎 28
 中田乙一 998
 中野重治 473
 中野清一 223・281・290・304・357・385・
 402・413～415・427・432・476・477・530・664
 中橋徳五郎 103
 長畑功 65・131
 永原和夫 1051
 中原健二 870
 長堀真礼 614
 中村賢二郎 63・133・192・227
 中村福治 925・926
 中村武羅夫 364
 中村和之雄 48・63・114・116・122・130・

196・261・287・320・349・350・352・354・
 381・382・395・401・434
 中山伊知郎 530・554・664・835
 那河捷平 363
 夏目漱石 235・512・769・924
 鍋島桂次郎 120

【に】

新山平四郎 27～29
 西尾清一 76・143・279・286・289・419
 西尾広 39・48・72・112・129・192
 西川欽也 843・924
 西川正巳 193・217・241・242・282・287・
 357・415
 西田幾多郎 683
 西田彰三 69・90・92・113・131・223・271・
 279・386・626・638
 西野嘉一郎 193・228・286・287・357・835
 西村久蔵 153
 仁保亀松 118

【ぬ】

沼田稲次郎 798
 沼田久 921・922

【ね】

根岸正一 65・72・112・192・226
 根来簡二 64・74
 ネフスキー 64・127・128・150・585

【の】

ノーマ・フィールド 1054
 野口正二郎 327
 野島辰次 364
 乗富道夫 227

【は】

芳賀典定 63
 バグレー 63
 橋詰益爾 64・112
 橋本左五郎 74・105
 橋本誠 223・435
 長谷川慶三郎 63・132
 長谷部亮一 523・528・636・642・643・687・

索引【人名】

寿原英太郎 698・705・745
スミルニッキー 223・329・434・481・585・
586・597・639

【せ】

関太一 726
関一 73・92・105・275
関口隆克 819
関本幸太郎 34

【そ】

左右田喜一郎 251・273

【た】

大正天皇 30
高岡熊雄 64・65・74・105・201・210・279・
432・571
高崎徹 223・798・895
高砂恒三郎 426・453・458
高島佐一郎 63・65・72・82・107・133・175・
180・185・192・193・266・273・413・619
高島善哉 664・835
高瀬荘太郎 669・734
高田紅果 263・273
高田保馬 390・415・476・477・530
高野岩三郎 571・664
高橋興平 342・355・358・359
高橋純 1052・1054
高橋次郎 223・258・281・283・284・289・
290・292・325・327・370・389・461・462・
467・470・481・483・484・530・569～571・
574・598・600・618・623・627・639・655～
657・662・665・684・696
高橋辰治 405・623・736
高橋直治 21・45
高橋益実 279・364
高浜虚子 155
高浜年尾 155
高松勤 65・72・109・110・133・135・216・
228・342・343・351・358・361・362
田上市之丞 223・373
滝廉太郎 33
武井正直 1062
竹内清 870・871・881・885・917

武隈良一 626・635・638・753・776・870・
880・917・923
武田英一 65・72・82・114・115・135・162・
165・180・191・192・271・273
武田浩司 1084
竹中聡広 1084
武部欽一 360
竹村保昭 996・997
竹谷辰郎 39・112
太宰曹徳 509
龍岡信熊 25・44
橋木俊詔 1094・1095
田中昭徳 852
田中乙 64・129・132
田中敏文 665・745
玉井武 390・464・504・574・626・627・634・
635・645・753・776・777・865・880
ダンカン 479・481
丹下忠之 925

【つ】

津久井佐喜男 835・868・880
椿藁一郎 18・19・21・25
津村秀松 65・74・105・486
鶴見俊輔 826

【て】

程恩潤 64
デーゲン 64・328・329
テラー 63・65・124・125
出口豊泰 273
手嶋恒二郎 342・343・351・354・359～361
手塚寿郎 65・76・80・110・131～133・135・
153・154・166・185・205・210・214～216・
223・236・255・266・271・275・276・279・
287・290・303・304・351・390・396・402・
407・414・423・432・446・448・462・470・
477・483・484・501・510・525～530・570・
576・653・804・831
寺田貞次 39・63・64・69・94・95・106・108・
137・155
寺田省婦 16・21
寺田行雄 342・357・358・367
デンケル 566・631

226・227・245・251・293・298・299・342・364
 ～367・369～373・414・510・512・610・769・
 797・798・894・896・924・1054・1084
 小町谷純 15・16
 小松原英太郎 31・34
 小脇一朗 1062
 今喜典 991

【さ】

斉藤磯吉 227・342・343・354・355・357～
 359・361
 斉藤要 912・923
 斉藤仁太郎 475・666
 斉藤直 385・427・474
 斉藤雄治 286
 嵯峨亮吉 232・499・501・530・535・537
 坂井一郎 762・881
 境一雄 348・349
 坂岡末太郎 73
 榊原清則 1062
 坂口伸六郎 868・870・880
 坂本陶一 36・48・65・72・76・114～116・
 120・121・130・132・146
 坂本弥三郎 290
 向坂逸郎 485
 作田荘一 377・390・476
 桜井長徳 798
 佐々木一義 468
 佐々木周一 835・838
 佐々木妙二 363
 佐藤亜美 1084
 佐藤治郎吉 39
 佐藤種季 232
 佐藤弘 761
 里見敦 364
 実方正雄 469・530・761・819・820・835・
 853・968
 佐野善作 73・105・162
 佐原貴臣 65・72・109・192・225
 サミュエルソン 789
 沢柳政太郎 14・21・24・30・45
 三箇清 223・373・403・413

【し】

椎熊三郎 699
 椎名幾三郎 65・72・133・135・187・218・
 225・266・275・364・819・820・903
 シェツケ 753
 時雨音羽 318・319
 品川秀三 279・387・461
 地主重美 642・863・868・870・871・875・
 881・883・885
 篠崎恒夫 926・943
 洪沢栄一 103
 志摩清一郎 48・63・65・72・94・95・111・132
 島木健作 512
 島崎藤村 235
 清水幾太郎 665
 清水邦夫 829
 清水春雄 818・824・881
 清水川緋紗子 885
 周長英 445・447・481
 十蔵寺宗雄 266・269
 シュムペーター 638
 昭和天皇 67・417・585
 ジョーンズ 63
 白川友正 415
 白川芳郎 881
 進藤寛 923・926

【す】

末延一郎 146
 末弘厳太郎 665
 菅野駿一 556
 菅谷重平 669
 杉村虎一 121
 杉本栄一 642・754・761
 杉山長谷夫 318・319・320
 鈴木茂三郎 511・665
 鈴木秀一 809・812・881
 鈴木為吉 64
 鈴木平一郎 230～232・346・349・352・362・
 363
 鈴木源重 360
 ステッドマン 39・119
 ストーリー 438・439・478～480・499

索引【人名】

鎌田力 1062
加茂儀一 737・805・902・904・905・907・
911・912・931・968
河合逸治 63・192
河合栄治郎 485・512
河上肇 228・511・683
川上久寿 475・638・753・880
川口正巳 632
川島豊秋 297・304・366・367・370・377・378
河田嗣郎 390
河田照子 615
河原直孝 21・118
川原鳳策 715・735・739・753・776・782・879
川村脩 232・427
川村三千雄 610・626・627・631・634・636・
637・648・649・660・664・753・774・879
関恩福 64・131
菅安右衛門 65・234
神田祐一 943

【き】

菊池大麓 5・118
木曾栄作 385・398・402・428・461・462・
465・483・574・602・626・627・634・636・
638・645・649・655・661・753・780・800・
820・829・838・845・870・871・880・924
木田茂晴 360
喜多了祐 635・636・638・642・649・812・
818・870・880
北田和成 435
木田橋喜代慎 226・236・405・526・623・736
鬼頭仁三郎 720・721
木梨芳一 1062
杵淵雄一 487・504・514・525・526
木部林二 210・214・223・270・429・446・
461・484・501・619・620・623・626・627・
634・636・638・661・682・753・818・819・
829・880
木村円吉 21・22
木村重義 223・431・471・574・627・632・635
～637・656・657・659・664・667・668・680・
682・736・740・754・779
木村善太郎 54・60・64・106・108・132・160
木村増三 642・648・833・834・871・872・

881・883・885
キャメロン 261
清浦奎吾 8
ギルボーイ 481
金龍植 349

【く】

草野義一 835
櫛田民蔵 343・344
国松豊 39・41・51・65・72・79・88・111・133・
155・175・180・181・192
久保田幸太郎 39・129
久保田譲 10
倉田百三 512・686・769
栗田源助 727・736
栗林徳一 412・419・495
クレーマー 657
クレメンス 753
黒井千代吉 64
黒田力造 342・354・355・357～360
黒沼義介 65・72
クロル 481・516
桑原輝路 642・870・881

【け】

ケインズ 638・683・764・765・789・871・924
劍木亨弘 717

【こ】

小泉信三 376・686
小泉丹 290
小出房吉 74
香木正雄 1062
幸徳秋水 372
香村英太郎 46
郡菊之助 78・99・144・163・167・279・469・
619
越崎宗一 104・150・179・279
古瀬大六 642・776・820・838・840・843・
871・880・883～885・924・939
小林象三 63・133・188・223・239・261・262・
333・336・448・462・472・473・504・622・
626・627・634～636・645・661・736・753
小林多喜二 12・154・184・191・193・216・

【う】

ウィルコム 64
 上田金造 603
 上田貞次郎 107・276・287・290～292
 上田辰之助 413・415
 上原専禄 640・642・643・720・753・761・
 764・819・868
 上原轍三郎 432・627・636・775
 潮田江次 640
 宇野茂夫 626
 馬屋原博 475・476・566・584
 卜部岩太郎 60・245・296・304・351・359・
 366・377～381・388・390・403・412・415・
 427・432・446・456・460・461・478

【え】

江川太郎左衛門 829
 榎本武揚 828
 袁世凱 33・34・59

【お】

大泉行雄 279・469・486・619・819・820・902
 大内兵衛 571
 大熊信行 109・133・192・216・269・619・819
 太黒マチルド 270・296・429・439・481・
 516・523・565・566
 大河内一男 665
 大杉栄 924
 小瀬伊俊 64・69・90・135・192
 太田朗 515
 太田耕造 594
 大竹多気 178
 大谷敏治 153・168・261・396・398・428・
 441・716
 大谷芳弘 993
 大塚金之助 642・819・835・836
 大塚久雄 836
 大西猪之介 51・54・56・63・65・78・84・101・
 105～109・130～135・152～154・163・192・
 196・214・216・236・266・269・271～273・
 286・396・414・554・564・653・804・831
 大野純一 78・187・188・205・217・223・251・
 268～270・276・278・279・283～285・289・

290・300・302・388・402・407・430・432・
 446・461・463・465・475・476・484・530・
 571・575・619・627・638・642・870・883・1010
 大庭定男 509・526
 大平善梧 357・642・761・819・836
 大平頼母 63・131・133・192・268
 大森恵吉 65
 大山郁夫 301・343・344
 小笠原基生 554・602・608・612・619
 岡田春夫 697・699
 岡田良平 34・178・229
 岡林豊樹 604
 岡本理一 218・461・462・467・471・530・
 571・626～628・632・635・637・656・657・
 659・661・668・669・680・754・770・772～
 774・776～779・800・812・863・870・873・
 879・917・923
 小川郷太郎 74・105
 小幡孫二 192
 小原亀太郎 64・69・90・111・129・180・192
 小原芳春 993
 小尾範治 60・64・82・133・155・192

【か】

賀川豊彦 82
 笠木良明 390
 風早八十二 798
 加地幸一 835
 梶浦彦臣 461・464・475・476・584
 片岡喜右衛門 405・475
 勝田省子 760
 桂太郎 4・8・31
 加藤俊平 946
 河東碧梧桐 390
 加藤政秀 65
 加藤録蔵 192・269
 金井健四郎 250
 金内辰明 1084
 金澤友次郎 801
 金森三郎 279
 金子元三郎 19・21・698
 金巻賢字 301・661
 嘉納治五郎 45・394
 樺山資紀 4・14

索引【人名】

校長・学長については、それぞれを主題とする章（渡辺龍聖：第二章、伴房次郎：第三章、苦米地英俊：第四章、大野純一：第五・六章、加茂儀一：第七章、実方正雄：第八章）において頻出するため、採録をばふいた。

【あ】

相沢正美 167・747
 合田正巳 342
 青木乙松 21
 青木匡光 993
 青木鎮夫 993
 赤松要 181・415・642
 秋山義昭 924・1007～1009・1012・1015・
 1032・1056・1065・1066・1070・1071・1073・
 1074・1080・1084・1087～1091・1093
 芥川龍之介 364
 麻田四郎 635・642・643・735・757・763・
 774・812・818・820・829・863・870・872・
 880・885・917・923・939
 安達与五郎 744・746
 アダム・スミス 522・638・764・789
 渥美静雄 403
 安孫子麟 910・918・922・923・926・946
 阿部謹也 866・867・926・1062
 阿部芳治 95・271・279
 天野郁夫 4・9・20・1008～1011
 天利長三 642・643・754・764・765・777
 荒又重雄 1062
 新谷敬三郎 760・805・881
 新谷専太郎 744
 安藤正巳 504

【い】

飯川文三 76・421・584・611・697・705・741
 イールズ 705・711～713・718
 井浦仙太郎 48・64・65・72・114・115・120・
 122・132・135
 池間誠 857・858
 石川三郎 856
 石川啄木 12・46・235・263

石河英夫 252・475・557・574・580・626・
 627・634～636・638・655・657・705・754・
 770・780・782・812・818・819・829・844・
 870・872・876・879・921・923・928
 石橋哲爾 39・62・64・72・96・129・155・180・
 192
 石原純 390
 石原全 946
 石原雅太郎 39
 泉谷順治 286
 泉屋清次郎 39・129
 板垣与一 185・193・251・276・641・642・
 713・753・754・761・819
 板谷宮吉 529・698
 出隆 512・683
 伊藤伊之吉 65・72・223・269
 伊藤信二 366
 伊藤整 154・184・191・193・216・251・293・
 299・364・369・372・515・769・798・826・
 835・896
 伊藤誠哉 704・705
 井藤半彌 642・530
 伊藤久秋 290
 伊藤森右衛門 575・885・923・930・961・
 962・967・990・999
 糸魚川祐三郎 78・80・81・214・223・226・
 252・391・402・403・430・435・441・477・
 478・501・619・620・622・701・726・819
 稻積豊次郎 257
 井上紫電 223・388・429・461
 井上巽 926・998・1078・1079
 猪木正道 836
 今村繁三 46
 岩田一男 472・473
 岩田博吉 768

小樽商科大学百年史（通史編）

二〇一一年七月七日発行

編集 小樽商科大学百年史編纂室

発行者 山本 眞樹夫

発行所 国立大学法人小樽商科大学出版会

〒〇四七―八五〇―

小樽市緑三丁目五番二一号

電話 〇一三四―二七―五二七―

FAX 〇一三四―二七―五二七―

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hosyo1/shuppanka/>

印刷

岩橋印刷株式会社

〒〇六三―八五八〇

札幌市西区西町南一八丁目一番三四号

電話 〇一一―六六九―二五〇〇（代）

※『小樽商科大学百年史（通史編、学科史・資料編）』及び写真集「北に一星あり」に掲載している新聞記事、写真・図版等の各資料（本学所屬資料を除く）については、各新聞社・関係各機関・個人等の許諾を得て転載しております。無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等、著作権を侵害する一切の行為を禁じます。